

JAPIA NEWS

2014
7・8

隔月刊

(通巻702号)

リニューアル創刊号

一般社団法人 日本自動車部品工業会

特集

部工会 通常総会開催

平成26年度 事業計画承認

委員会部会だより

知的財産権部会

自動車の技術と事業のグローバル化
歩調を合わせて進化

会員企業紹介

株式会社 ワイピースシステム

会員トピックス

世界ベテラン卓球大会に出場

ずい筆

- グローバル化つれづれ
- 変化を楽しもう

巻頭言

Introduction

会長2期目の 就任にあたり



一般社団法人日本自動車部品工業会
会長・玉村 和己

〔日本発条株式会社 代表取締役社長〕

今年5月で、当工業会の会長に就任してから2年が経過しましたが、おかげさまで業界を取り巻く環境にも比較的恵まれ、大過なく会長職を務めることができました。これも皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

また、このたび、総会でのご承認をいただき、2期目の会長に就任させていただくこととなりました。前期と同様に穏やかな状況が続くことを期待いたしますが、「天災は忘れた頃にやってくる」の言葉通り、油断していると何が起こるかわかりませんので、「備えあれば憂いなし」の気持ちを持って、何事にも取り組む所存でございます。会員企業の皆様におかれましては、引き続きましてのご指導・ご鞭撻のほどを、あらためましてお願い申し上げます。

既にご承知のことではありますが、平成25年度の国内新車販売は、昨年11月に開催されました東京モーターショーの効果や、消費税率アップ前の駆け込み需要の影響もあり、569万台と3年連続して前年プラス、かつ2年連続して500万台超えとなりました。結果として、好調な国内新車販売、海外では米国を中心にして堅調に景気が推移したこと、加えて円高是正の効果によりまして、多くの会員各社は好決算だったのではないのでしょうか。ただし、平成26年度は、円高是正効果が一巡する上に、駆け込み需要の反動、エネルギーコストや

原材料価格の上昇、アジア地域を中心とした労務費のアップなど、多くの懸念される要因がありますので、全社で危機感を共有しながら、生産性の向上や各種の原価低減努力など、日ごろの地道な改善の積み重ねがより重要になってくると思います。また、グローバルで自動車のユーザーが拡大し、特に新興国市場を中心に、急速な量の拡大と質へのニーズの高まりを見せている中で、自動車メーカーばかりでなく、自動車部品メーカー間においても、海外を交えた競争もますます激化しております。嗜好の多様化に加えて、安全性能や環境への影響に対する規制も強化されております。自動車産業は裾野の広い産業であり、様々な産業のネットワークで成り立っております。自動車部品産業は、そのネットワークの中心として、的確に素早く対応し、ビジネスチャンスに大いに結びつけていくことが期待されます。

一方、当工業会においては、これまで長年にわたり月刊誌として刊行してきた「月刊自動車部品」を全面リニューアルし、「JAPIA NEWS」として新たに発行していくことといたしました。本号はその第1号となります。内容も見直し、これまでの内容を継続する企画に加えて、「会員会社紹介」や会員企業の従業員などに登場していただく「会員トピックス」など、より身近な話題も提供し、これまで以上に会員相互のコミュニケーションを活発にしてい

たいと考えております。各社内におかれましても、どうか広く一般の従業員の皆様にも回覧いただき、当工業会の活動への積極的な参加をお願いしたいと存じます。

ところで、今年はサッカーのワールドカップ・ブラジル大会が開催されました。日本代表の成績はあと一歩というところでしたが、強豪といわれる国が予選敗退するなど、世界で戦うことのむずかしさを痛感させられました。自動車産業は、経済の「日本代表」として、日々世界中で戦っておりますが、様々な分野においてトップグループであり、優勝争いできるポジションにあります。私たち部品メーカーとしても、勝利に貢献できるよう、日々切磋琢磨してまいりたいと存じます。

最後に、自動車業界を取り巻く課題は多くございますが、日本自動車部品工業会では、その解決にむけた活動の一環として、会員企業への情報発信、共有、研修の機会の提供や、関連団体などへの働きかけなどを通じ、自動車部品産業のあり方を改めて考え、これまで以上に会員企業の力になっていくように、努力いたす所存でございます。自動車部品産業がさらに発展し、力強く邁進していくために、今後も各種の課題解決に着実に取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「月刊自動車部品」リニューアルに寄せて

総務委員会 広報部会長・土居 清志

[NOK株式会社 専務取締役]



日本自動車部品工業会の会報誌は、昭和29年12月に「オートパーツ」として第1号を発刊して以降、3年後の昭和32年12月、「月刊自動車部品」に名称を変更し、毎月発行してまいりました。人間に例えれば、還暦を迎える古強者となっています。

この間の自動車部品産業の発展、拡大ぶりは創刊当時の想像をはるかに超える広さ、深さではないかと思います。国内においては、日本経済をリードする自動車産業の一翼を担う産業集積として、その工業出荷額・雇用・輸出金額の規模において日本経済に大いなる貢献をしていると自負して良いと思います。事業の海外展開も急速に拡大しており、海外の自動車産業にとっても欠かせない“日本の部品産業”となっていると確信します。

今後はどうでしょうか?予見しうる将来においても、動力形態は発展・変革しながら、人々の生活を快適に楽しくする“乗り物”として自動車が必要とされることは衆目の一致するところだと思います。その“乗り物”たる自動車の発展・変革に従来同様、技術の開発や新商品の上市、供給力の整備などを通じ

て貢献せねばなりません。

自動車部品産業の置かれた立場・役割・期待される将来への貢献などを見据え、経済政策情報、技術情報、国際情勢の動向、マネジメント情報などの有益情報、知識の会員各社との共有を主たる目的としつつ、等身大の自動車部品産業を外部に発信することを意図して月刊自動車部品をリニューアルすることとし、その名も「JAPIA NEWS」と致しました。

このリニューアルにあたっては、会報誌の読者である会員各社に対し、アンケートを実施し、その結果を踏まえつつ、部品工業会が持つ情報と日刊自動車新聞社殿が持つ業界情報を融合させることが有効であろうという判断のもと、日刊自動車新聞社殿に編集制作を委託し、費用と内容の充実に割く時間を考慮して、当面は隔月で発行することに致しました。

会員企業の皆様からの率直なご指摘、忌憚のないご意見は、リニューアルに携わった関係者にとって幸いとするところであります。どうぞ宜しくお願い致します。

特集

部工会 通常総会開催

平成26年度 事業計画承認

日本自動車部品工業会は、5月22日（木）、東京都内のホテルにおいて平成26年度通常総会を開催した。当日は、平成25年度事業報告・決算および平成26年度事業計画・予算について審議し、いずれも原案どおり承認された。

今年度の事業計画では、自然災害時の対応としてリスクマネジメントに対する支援を実施する。中小会員企業への支援として技術展示商談会を2回開催するほか、海外事業展開への支援として、輸出入のインフラや法規制を含めた各国の国際物流に関す

る課題の整理に取り組む。その他、環境問題への対応、知的財産権問題への対応等、9項目（事業計画参照）の重点事業を中心に活動を強化していく方針である。

この他、今年は役員の改選期であり、任期満了に伴う理事・監事全員の改選が行われた。その後、開催した臨時理事会では、玉村会長が引き続き会長に選任され、第2期目のスタートを切った。その他、アイシン精機(株)の藤森社長が新たに副会長・国際委員会委員長に就任した。



挨拶する玉村会長



総会会場

役員紹介

		名 前	会社名/役職
会 長		玉 村 和 己	日本発条(株) 取締役社長
副会長	総務委員会委員長	志 藤 昭 彦	(株)ヨロズ 取締役会長
	関東支部長	臼 井 政 夫	K Y B(株) 取締役社長
	中部支部長	判 治 誠 吾	大同メタル工業(株) 取締役会長
	関西支部長	吉 田 寿佳志	大東プレス工業(株) 取締役会長
	総合技術委員会委員長	豊 田 周 平	トヨタ紡織(株) 取締役社長
	国際委員会委員長	藤 森 文 雄	アイシン精機(株) 取締役社長
		高 橋 武 秀	日本自動車部品工業会 専務理事



玉村会長



志藤副会長



臼井副会長



判治副会長



吉田副会長



豊田副会長



藤森副会長



高橋専務

○印は新任

		名 前	会社名/役職
理事 (44名)		小 林 信 雄	愛三工業(株) 取締役社長
		川 本 睦	アイシン・エイ・ダブリュ(株) 取締役社長
		藤 森 文 雄	アイシン精機(株) 取締役社長
		信 元 久 隆	曙ブレーキ工業(株) 取締役社長
		水 松 幹 夫	(株)アステア 取締役会長
		石 川 伸一郎	石川ガスケツト(株) 取締役社長
		鶴 正 登	NOK(株) 取締役社長
		中 村 克 己	カルソニックカンセイ(株) 取締役会長
		瀬 濤 康 寛	(株)キーレックス 取締役会長
		臼 井 政 夫	K Y B(株) 取締役社長
		大 嶽 昌 宏	(株)小糸製作所 取締役社長
		小 島 洋一郎	小島プレス工業(株) 取締役社長

		名 前	会社名/役職
理事 (44名)		高 橋 秀 仁	GKNドライブラインジャパン(株) 取締役社長
		下 中 利 孝	シグマ(株) 取締役社長
		正 田 敦 郎	しげる工業(株) 取締役社長
	○	中 塚 晃 章	ジヤトコ(株) 取締役社長
		北 條 陽 一	(株)ショーワ 取締役社長
		西 田 光 男	住友電気工業(株) 専務取締役
		岡 徹	ダイキョーニシカワ(株) 取締役社長
		吉 田 寿佳志	大東プレス工業(株) 取締役会長
		判 治 誠 吾	大同メタル工業(株) 取締役会長
		小 川 信 也	太平洋工業(株) 取締役社長
		加 藤 宣 明	(株)デンソー 取締役社長
		牛 山 雄 造	(株)東海理化 取締役社長
		藤 井 康 雄	トピー工業(株) 取締役社長
	○	荒 島 正	豊田合成(株) 取締役社長
		豊 田 周 平	トヨタ紡織(株) 取締役社長
	○	藤 井 勝 和	(株)ニッコー 取締役社長
	○	大 塚 紀 男	日本精工(株) 取締役社長
	○	尾 堂 真 一	日本特殊陶業(株) 取締役社長
		玉 村 和 己	日本発条(株) 取締役社長
		寺 浦 實	(株)ハイレックスコーポレーション 取締役社長
		西 村 憲 一	光精工(株) 取締役社長
		大 沼 邦 彦	日立オートモティブシステムズ(株) 取締役会長
		晝 田 眞 三	ヒルタ工業(株) 取締役会長
	○	角 堂 博 茂	プレス工業(株) 取締役社長
	○	森 川 典 子	ボッシュ(株) 取締役副社長
		山 田 隆 雄	マルヤス工業(株) 取締役会長
		日 野 昇	(株)ミツバ 取締役会長
		矢 崎 信 二	矢崎総業(株) 取締役社長
		志 藤 昭 彦	(株)ヨロズ 取締役会長
	○	岡 野 教 忠	(株)リケン 取締役社長
		高 橋 武 秀	日本自動車部品工業会 専務理事
		加 藤 俊 雄	日本自動車部品工業会 常務理事

		名 前	会社名/役職
監事 (6名)		宮 川 博 至	三和パッキング工業(株) 取締役社長
		成 瀬 哲 夫	東海ゴム工業(株) 特別顧問
		相 羽 繁 生	(株)東郷製作所 取締役社長
		藤 木 達 夫	丸五ゴム工業(株) 取締役社長
		武 藤 正 弘	武蔵オイルシール工業(株) 取締役社長
		三 浦 悟	公認会計士

平成26年度 事業計画

1. リスクマネジメントに対する支援

- (1) 自然災害等の非常事態発生時への対応として、自動車部品産業を取り巻くリスク対応支援を強化する。平成24年度に取りまとめたBCPガイドラインの仕入先への理解促進に加えて、会員企業で取組んでいるBCPの実効性をあげるため、先行企業の取組み事例等のセミナーを開催する。
- (2) 平成22年7月に米国で法制化され、平成25年1月から法律適用が開始し、関連調査が実施された紛争鉱物規制問題については、引き続き、会員企業の調査負担低減のため、調査方法（記入要領等）の見直しを関係団体と連携をしながら実施する。
また、海外進出会員企業の安全対策等事業環境整備の支援として、海外での「海外安全・健康管理サービス」の内容充実、活用拡大や労務・税制問題等に関する講演会を実施する。
- (3) 不安定な電力需給や電力価格の上昇が懸念される中で、政府等の電力需給の見通し等適宜情報を提供するとともに可能な限り他業界を含めた省エネ・省電力の情報提供・情報共有を行う。

2. 中小企業への支援

中小企業のビジネス機会の創出を図る目的で自動車メーカーを対象とした技術展示商談会を開催する。また、中小企業のEDI化への取組みを支援するため、JNX共通EDIの運用拡大を図る。昨年度改訂が行われた「自動車産業取引適正ガイドライン」については、関係省庁・団体とも連携しながら、会員企業等への周知等を図り、自動車産業における取引の更なる適正化を支援する。

3. 海外事業の展開・安定化への支援

- (1) 海外事業の新設・拡充を推進する会員企業の事業体質強化への支援策として、輸出入

のインフラや法規制等を含めた各国の国際物流に関する課題の整理と対応を進める。中国やアセアン等の会員企業の進出が増加し続けている国/地域について、労務管理等に関する情報提供を行う。

- (2) 会員企業の進出が著しく、今後も進出が増加すると思われる国・地域及び、今後新たな生産地として開拓される可能性の高い国・地域への調査団の派遣を検討する。
- (3) 海外に生産/販売法人を持たない企業の事業体質強化として、FTA/EPAの利用を促す情報提供を行う

4. 知的財産権保護活動

- (1) 模倣品対策活動の取組み指針であるロードマップは平成25年度で一巡したことから、新たに地域を拡大した5カ年ロードマップを作成・実施する。具体的な活動としては、従来から行っているオートメカニカ上海の共同出展での模倣品対策に加え、中国当局への取締りのための情報提供、欧米系の反模倣品団体との連携強化により、模倣品対策活動の強化を図る。また、中国以外の模倣品生産地/流通地についても実態調査により現状を把握し、対策を進める。
- (2) 米国や中国で問題となっている模倣エアバッグ問題への対応として、日本自動車工業会とワーキンググループを開催し、共同で対応する。また米国自動車部品工業会(MEMA/OESA)、欧州自動車部品工業会(CLEPA)と情報交換を行い、米国、欧州での対応方法を検討する。

5. 国際交流の推進

三極自動車部品会議を継続して実施する。また、新興国市場の重要性に鑑み、日米欧以外の自動車部品関係団体の交流拡充について三極事務局間で協議する。

6. 環境問題への対応

- (1) 京都議定書対応を旨とした目標（CO₂排出量90年度比08～12年度平均7%減）を十分なレベル（23%減）で達成した。2013年度以降は、国が定めた「2020年までの温暖化削減目標」の対応として第7次環境自主行動計画（CO₂原単位年平均1%低減）を立案し、10月17日に理事会にて承認されており、各会員企業の継続的な削減活動に対して、活動支援策の継続・強化に努める。

また、生産過程におけるCO₂排出の現状把握と改善点を見出す狙いです。すでに工業会会員にリリースした「JAPIA LCA計算ツール」の普及を図り、製品の製造エネルギーの評価を加速させる

- (2) 製品含有化学物質を把握するためのJAMA/JAPIA統一データシート改善について、平成26年度も継続して取り組み、自動車工業会との意見調整を含め、サプライチェーンのさらなる作業負荷低減に傾注する。

また、IMDSの長期構想（IMDS2020）において、IMDSの改訂等による影響を最小化するため、IMDSステアリングコミッティに対し、日本のサプライヤの意見を継続して反映すべく努力していく。

- (3) CATARC（日本の自動車研究所に相当する機関）とJAPIAとの間で中国向け納入部品の環境負荷物質に関する情報提供システム（CAMDS）にデータを容易に入力できる変換ツールを2011年に開発・リリースした。中国でのCAMDS利用拡大に伴い、会員各社への周知とヘルプデスク設置によるサポートを行っていく。また、CATARCとは定期的な情報交換の場を拡大し、市場が拡大し、環境政策が大きく変化する中国において、当工業会会員が活動しやすい関係・環境づくりのため、活動していく。

7. 電子情報化活動

JNXの利用拡大を支援する一環として、JNXを活用したWeb会議システムの利用を拡大し、時間・コストの削減を図った会議運用を継続実施するとともに改めてPRIに努める。デジタルエンジニアリングの3Dデータのセキュリティ等、早急な対応を必

要とする問題の検討を行い、紹介に努める。

また、自動車部品メーカー間のEDI利用拡大については、JNX回線を活用した手法を含め一層推進する。

8. 基準・認証制度への対応

相互認証が基本である58協定に関わらず、アジア、南米等の各国は、独自認証制度を設けている。これを受けて、これまでと同様、基準認証部会が中心となり、各地域に対するWGを充実させ、他団体（JAMA, JASIC, CLEPA等）と協業、各国当局&業界のパイプを通して具体的な展開（早期情報入手、改善折衝等）を図っていく。そしてこれらの情報はJAPIA HPを通じて広く会員会社へ展開していく。また、従来通り、下記活動を継続的に進めていくこととする。

- (1) 基準の国際調和活動については、引き続き欧州部工会（CLEPA）、米国部工会（MEMA）と連携して国連のECE/WP29（車両構造部会）へ参加し、ECE規則への対応に重点的に取り組む。また新たな欧州での関連法規については、CLEPAと連携して情報収集に努め、国内部品メーカーへの展開を図る。

- (2) 韓国、中国、インドやブラジル等の部品認証制度に関しては、継続的に情報収集を実践する。特にASEANの部品認証制度に関しては2015年開始が予定されているが、各国の事情が複雑に絡み、しっかりした情報収集が重要となっている。アジア官民会議への参画をはじめ、日系部品メーカーの円滑な認証取得を支援すべく活動を継続する。また、中国強制認証制度（CCC認証）についても、規則の改定等変更が多発傾向にあるため、関係当局への聞き込みなどの働き掛けを行い、認証取得関連業務の負担軽減に努める。

9. 支部事業要望

- (1) 関東支部

工業会事業計画に定められた方針に沿って本部活動との連携に加え、中部、関西支部とも協力しつつ、関東支部会員企業の相互交流と情報交換の機会を作るための懇談会、見学会、講演会を開催する。具体的には、企画部会が中心となって、支部会員を対象とした要望調査

を実施し、自動車部品産業の環境変化の流れに即応しながら、会員企業の事業活動に資する活動を積極的に展開する。

(2) 中部支部

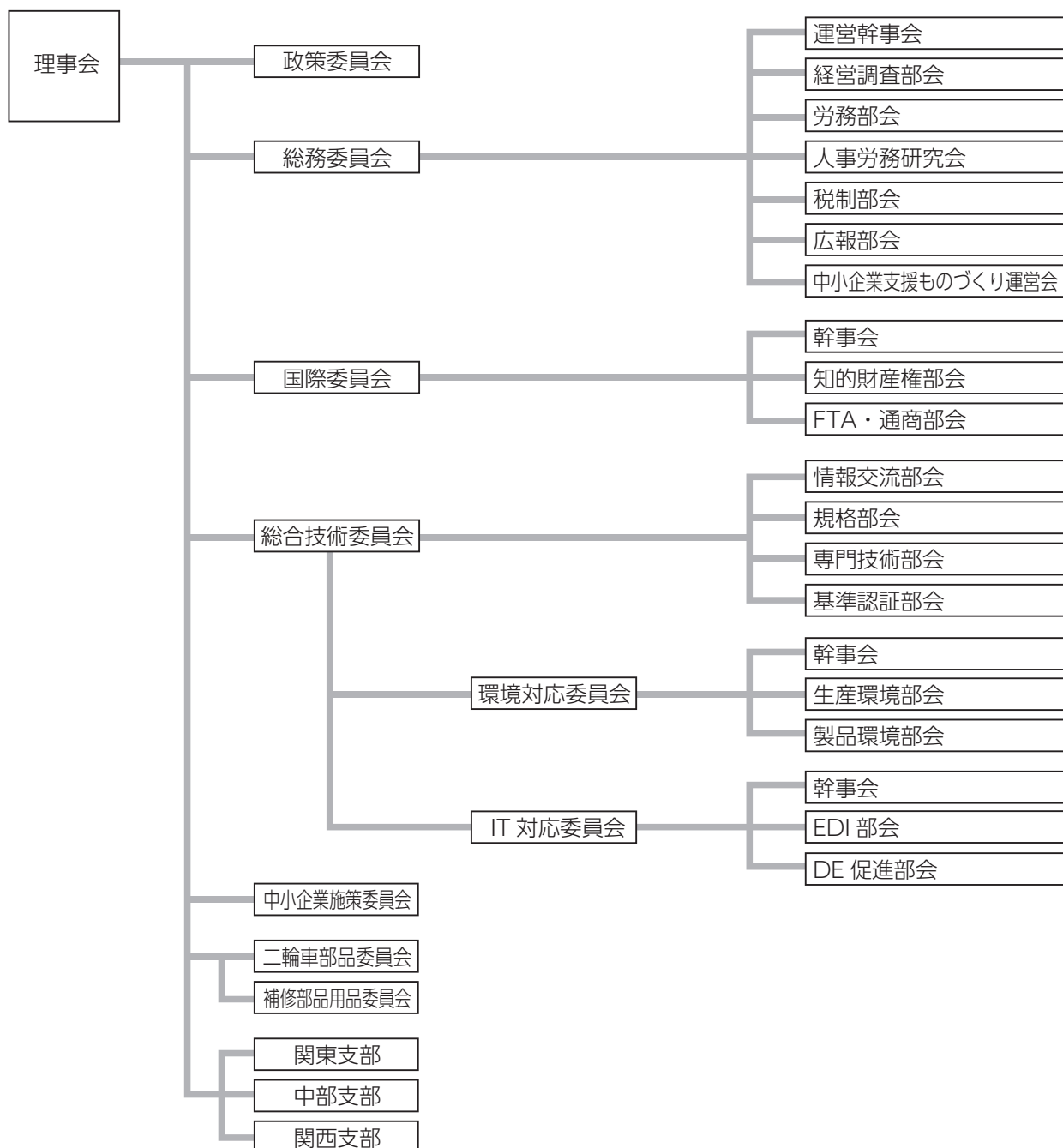
今年度も会員企業のニーズにタイムリーに応える事業活動の展開を図り、中小企業会員を中心に次世代自動車へのビジネス拡大やものづくり力向上のための支援を継続して推進し、また地球温暖化対策のために、

幅広い環境保全活動への積極的な支援事業を進めてゆきたいと考えております。

(3) 関西支部

平成26年度活動基調テーマとして、「世界の自動車メーカー・自動車部品メーカーとの共生が可能な経営システム作りを考えて行こう」を掲げ、焦点を絞りつつ、具体的な活動を推し進めて行く。

■日本自動車部品工業会の委員会組織



工業会業務レポート

委員会活動

総務委員会

1.部会の開催状況

- ①総務委員会 6月10日
- ②経営調査部会 6月3日
- ③旧型補給部品検討会 4月23日、5月29日
- ④紛争鉅物調査説明会
5月14日、20日、23日、26日、6月6日
- ⑤広報部会 4月17日

2.活動内容

- (1) 総務委員会
・上場企業82社の平成25年度の自動車部品工業の経営動向について検討を行い、6月11日に新聞発表をした。
- (2) 経営調査部会
・平成25年度の上場企業82社の経営動向調査（案）について検討を行った。
- (3) 旧型補給部品検討会
・旧型補給部品の改善要望内容取りまとめについて検討を行った。
- (4) 紛争鉅物説明会
・紛争鉅物の調査に関する説明会を名古屋、磐田、横浜、宇都宮、広島で開催した。
- (5) 広報部会
・平成25年度下期の事業についての報告と、平成26年度の事業計画についての検討を行った。

●活動記録

- 4月17日 広報部会（部品会館）
- 4月23日 旧型補給部品検討会（部品会館）
- 5月14日 紛争鉅物調査説明会（ウイंकあいち）
- 5月20日 紛争鉅物調査説明会（磐田市アミューズ豊田）
- 5月23日 紛争鉅物調査説明会（NISSANホール）
- 5月26日 紛争鉅物調査説明会（本田技術研究所 四輪R&Dセンター）
- 5月29日 旧型補給部品検討会（部品会館）
- 6月3日 経営調査部会（部品会館）
- 6月6日 紛争鉅物調査説明会（マツダ協力会センター）
- 6月10日 総務委員会（部品会館）

●主要行事予定（8/15以降）

- 7月8日 経営調査部会 講演会（名古屋栄ビルディング）
- 7月11日 経営調査部会 講演会（機械振興会館）
- 8月22日 税制部会（部品会館）
経営調査部会（部品会館）
- 9月9日 労務部会（部品会館）
- 9月10日 総務委員会（部品会館）

総務部

●業務報告（5/16～7/15）

〔本部〕

- 5月22日 通常総会、臨時理事会（グランドプリンスホテル高輪）
- 5月29日 広報部会月刊誌WG（部工会）
- 6月17日 広報部会懇談会（部工会）

〔関東支部〕

- 5月22日 関東支部運営委員会（グランドプリンスホテル高輪）
関東支部通常年次会（グランドプリンスホテル高輪）

- 5月24日 関東支部運営委員会社懇親ゴルフ会（小田急藤沢ゴルフクラブ）
- 6月3日 関東支部企画部会正副部会長会議（自動車部品会館）
- 6月5日～6日
関東支部企画部会（KYB(株)岐阜北工場、KYB金山(株)）

〔中部支部〕

- 5月29日～30日
ISO9001:2008内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
- 5月29日～30日
ISO14001:2004内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
- 5月30日 第70回JAPIA中部ゴルフ会（桑名カントリー倶楽部）
- 6月3日 ISO/TS16949:2009規格解説セミナー（刈谷市産業振興センター）
- 6月5日 【中小企業部会】活動計画検討会（名古屋栄ビル）
- 6月12日～13日
ISO9001:2008内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
- 6月13日 【環境部会】活動計画検討会（名古屋栄ビル）
- 6月17日～18日
ISO/TS16949:2009コアツール実践2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
- 7月4日 米国法務セミナー（名古屋栄ビル）
「最近の米国における移民法に関する諸問題」
本間道治氏 米国インディアナ州弁護士
- 7月8日 講演会（名古屋栄ビル）
「国内外の自動車市場の展望と日系自動車メーカーの戦略」
箱守英治氏 大和証券シニアアナリスト
- 7月17日～18日
ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
- 7月17日～18日
ISO14001:2004 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
- 7月23日 【環境部会】優良施設見学会（TOTO（株）滋賀工場）
- 7月30日 講演会（名古屋栄ビル）「自動車の安全問題とADAS・自動運転について」今井英二氏 日本自動車部品工業会技術担当顧問

〔関西支部〕

- 5月20日 【経営研修会】講演会（ウェスティンホテル大阪）
「中国&アセアン市場再考」
箱崎大氏 日本貿易振興機構海外調査部 中国北アジア課長
- 5月28日～29日
【JAPIA関西倶楽部】第1回懇親旅行（月日亭）
- 6月19日～20日
【品質分科会】ISO/TS16949:2009内部監査員2日間セミナー（エルおおさか）
- 6月20日 【品質分科会】第1回委員会・情報交換会・工場見学会（丸五ゴム工業（株）本社工場）
- 6月27日 【総務分科会】第1回勉強会（(株)エクセディ本社）
「海外進出企業・現地責任者による海外進出勉強会」後藤智昭氏 エクセディフリクションマテリアル社長
- 7月9日 【技術分科会・補修部品分科会共催】第1回工場見学会（新明和工業（株）甲南工場・宝塚分工場）

7月15日 【JAPIA関西倶楽部】 祇園祭とミシュラン味巡り
(祇園祭・宵山見学/ラ・トゥール京都)

●行事予定 (8/16～9/19)

〔関東支部〕

9月11日 関東支部企画部会 (三輪精機 (株))

9月12日 補修部品用品研究会工場見学会 (鍋屋パイテック)

9月17日 中小機構 中小企業支援事業説明会 (部品会館)

9月19日 関東支部運営委員会社懇親ゴルフ会 (平塚富士見カントリークラブ)

〔中部支部〕

8月21日 【環境部会】 講演会 (名古屋栄ビル) 「ものづくり企業の進むべき道」～明日を創るイノベーション創出戦略～中村保氏 静岡大学工学部 特任教授

8月29日 講演会 (愛知県産業労働センター) 「HONDAの環境取り組み」
藤原道雄氏 本田技研工業 (株) 環境安全企画室 室長

9月12日 結団式 (名古屋マリオットアソシアホテル)

〔関西支部〕

9月5日 【品質分科会】 第2回委員会・勉強会 (ダイヤモンド電機 (株)・鳥取)

9月11日～12日

【品質分科会】 ISO/TS16949:2009内部監査員2日間セミナー (エルおおさか)

9月12日 第2回正副支部長会、第1回運営委員会、情報交換会、講演会、懇親会 (シェラトンホテル広島)

9月13日 【JAPIA関西倶楽部】 第152回ゴルフコンペ

国際部

●業務報告 (5/16～7/15)

5月21日 BLP独禁法セミナー

6月5日 知的財産権部会、関係WG

6月24日 国際委員会・幹事会

7月3日 国際委員会

7月7日 米国法務セミナー

●行事予定 (8/15～9/15)

8月29日 知的財産権部会、関係WG (名古屋栄ビル)

9月4日 FTA・通商部会

9月10日 国際委員会幹事会

月間活動記録

技術関係

◎外部会議等に出席・参加 (5/16～7/15)

5月16日 JAMA製品化学物質管理部会 (JAMA)

5月19日 シンポジウム「ナノカーボン材料が創る新しい社会」(イイノホール)

5月20日 クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金審査委員会
(次世代自動車振興センター)

5月21日 ITS Japan幹事会 (日本女子会館)

人とするものテクノロジー展 (パシフィコ横浜)

5月22日 JST・CRCC研究会セミナー (科学技術振興機構・東京本部)

5月23日 JSAE 春季大会 (パシフィコ横浜)

5月26日 日本機械工業連合会 会員講演会 (機械振興会館)

低炭素社会実行計画WG (経団連会館)

5月27日 日本機械工業連合会 技術開発研究委員会 (機械振興会館)

5月28日 JASIC 一般安全分科会 (JASIC)

JSAE 関東支部講演会 (防衛省技術研究本部艦艇装備研究所)

6月4日 JSAE 関東支部総会 (如水会館)

6月5日 JAMA ELV分科会 (JAMA)

6月6日 交通安全環境所 講演会 (国連大学 ウ・タント国際会議場)

6月9日 JAMA WP29・IWVTA対応部会 (JAMA)

6月10日 ゴム物性JIS原案作成委員会 (ゴム工業会)

JASIC アセアン分科会 (JASIC)

IMDS-JSC (日本HP)

6月13日 JAMA 化学物質管理部会 (JAMA)

6月17日 クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金審査委員会 (次世代自動車振興センター)

6月19日 JAMA 個別物質分科会 (JAMA)

JNX 運営部会 (JNXセンター)

6月20日 JARI-RB 環境判定委員会 (JARI-RB)

ISO16332 WG (JSAE)

6月24日 中央環境審議会廃棄物処理基準専門委員会 (全日通霞ヶ関ビル)

総合エネルギー調査会・省エネルギー小委員会 (経済産業省)

JAMA アジア分科会 (JAMA)

低炭素社会実行計画WG (経団連会館)

6月25日 JARI-RB 品質判定委員会 (JARI-RB)

JISC 自動車技術専門委員会 (経済産業省)

6月26日 自動車会議所 道路環境部会 (虎ノ門ヒルズ)

6月27日 産業構造審議会フロン類等対策WG (経済産業省)

自動車燃費基準小委員会 (経済産業省)

設計製造ソリューション展 (東京ビッグサイト)

6月30日 環境部会 (経団連会館)

7月1日 LCA日本フォーラム総会・セミナー (学会館)

7月2日 中央環境審議会循環型社会部会廃棄物適正処理検討専門委員会 (大手町サンスカイルーム)

7月4日 JARI-RB 環境判定委員会 (JARI-RB)

7月5日 JSAE関東支部 くるま未来体験教室 (日本大学・船橋)

7月8日 中央環境審議会 気候変動影響評価小委員会 (フロラシオン青山)

7月9日 日本内燃機関連合会 総会 (三井造船)

7月10日 自動車点検整備推進協議会 (国土交通省)

IMDS-JSC (日本HP)

JASIC フィリピンプロジェクト国内委員会 (JASIC)

7月15日 クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金審査委員会 (次世代自動車振興センター)

JASIC 国際対応部会 (JASIC)

JASIC 官民フォーラムWG (JASIC)

JAMA DE部会 (JAMA)

●主要行事予定 (8/15～9/14)

8月23日～30日

SUAL、CATARC会議 (上海)

8月29日 基準認証部会

8月29日 DE促進部会幹事会

DE促進部会

9月3日 環境対応委員会

9月3日 製品環境部会幹事会

9月4日 製品環境部会幹事会

9月5日 製品環境部会

9月11日 電線部会

技術関係委員会等の開催状況 (5/16～7/15)

1. 総合技術委員会

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
6月4日	平成26年度 第1回総合技術委員会	自動車部品会館	1) 環境問題への対応について 2) 電子情報化への対応について 3) 基準・認証制度への対応について 4) その他 各委員の情報交換

2. 基準認証部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
6月6日	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) 中国認証機関の日本招聘計画について(CQC) 2) 中国CCC実施規則改定にともなう質問・要望事項まとめ 3) ブレーキホース部会、シートベルト部会の中国ミッションについて(CCAP)
6月12日	基準認証部会	自動車部品会館	1) インドWG 活動状況 2) 中国WG 活動状況 3) ASEAN-WG 活動状況 4) JASIC情報

3. IT対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
5月29日	EDI部会	自動車部品会館	1) 平成25年度活動実績について 2) 平成26年度活動計画について
	IT対応委員会	自動車部品会館	1) JNXセンターの活動について 2) 平成25年度IT対応委員会幹事会の活動について 3) 平成25年度DE促進部会の活動について 4) 平成25年度EDI部会の活動について
5月30日	DE促進部会幹事会	自動車部品会館	1) 自工会・部工会関連情報について 2) 異業種交流について
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体について 2) WG活動について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動

4. 環境対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
5月21日	LCA分科会	自動車部品会館	1) LCA活用説明会の説明内容と事前準備 2) 削減貢献度の算出方法とデータベースの検討 3) 次年度体制と対応内容の説明
	JAMAシート分科会 幹事会	自動車部品会館	1) JAMAシートver2.21改正準備進捗確認 2) GASGアンケート対応確認 3) 5/13 IMDS-SC 情報展開 4) 6/6全体会の議題と担当の確認
5月22日	化学物質規制対応 分科会幹事会	自動車部品会館	1) 2014年度活動計画 2) 7月全体会の議事 3) 自工会との会議結果 4) REACH TF・欧州出張
5月23日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 次回の総合技術委員会の報告内容 2) 欧州ELV・関係者会議報告 3) IMDS-SC with Supplier報告 4) CLEPA Material Regulation Eventの報告内容
5月30日	LCAに関するガイド ラインとツール活用 説明会(東京会場)	千代田区立 日比谷図書 文化館	1) LCAを取り巻く動向について 2) LCAガイドライン/ツールの活用説明 3) LCA分科会活動説明、アンケート記入依頼
6月5日	鉛規制対応分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 14年見直し項目への対応 2) 電機・電子4団体Ad-hoc関連トピックス 3) 銅合金見直しへの対応 4) 自工会ELV規制物質分科会会合(6/5)の報告内容確認

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
6月6日	JAMAシート分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 全体会の資料内容と分担確認 2) JAMAシートver2.30作業スケジュール確認
	JAMAシート分科会	自動車部品会館	1) JAMAシート 2.21 レビュー結果 2) GADSLアンケート結果 3) IMDSアンケート結果 4) JAMAシート 2.30 外部設計書 5) 物質調査に関わる最新情報
	事例・情報展開TF	自動車部品会館	1) 事例マップ6月発行にむけて 2) 調査回答書5.省エネ対策の実施事項の見直し 3) 省エネ規制情報調査について 4) ISO50001情報収集の内容について
6月11日	LCAに関するガイド ラインとツール活用 説明会（名古屋会場）	名古屋市 工業研究所	1) LCAを取り巻く動向について 2) LCAガイドライン/ツールの活用説明 3) LCA分科会活動説明、アンケート記入依頼
6月12日	中国ELVセミナー	建築会館	1) 中国ELV規制の最新状況と規制内容について 2) CAMADSの紹介、OEMの利用状況について 3) 部品メーカーへの影響（物質調査とSOC分析）について
6月16日	鉛規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1) 欧州側の動向 2) 電機・電子4団体RoHSアドホック関連 3) 銅合金見直しへの対応
	銅合金TF	自動車部品会館	1) 欧州側の動向 2) 銅合金の技術データ収集について 3) 銅合金代替シナリオの検討について 4) 今後の進め方
6月23日	LCA分科会	自動車部品会館	1) LCAに関わる動向 2) 今年度の計画と体制 3) データベースと使用段階検討
	環境保全規制対応検討 WG	自動車部品会館	1) 経団連への対応について 2) 中国の水事情について 3) 「環境法規制対応ガイダンス」について
6月27日	入り口管理ガイダンス WG	自動車部品会館	1) ガイダンスの対象範囲について 2) 仕入先からの含有物質報告データの扱い 3) 社内への啓発活動
	啓発推進グループWG	自動車部品会館	1) 啓発推進G活動のねらい 2) 啓発推進Gのタスク 3) 説明会の方向性
	法規制対応WG	自動車部品会館	1) CLP規則、SDSラベル対応 2) 各国法規リストの整備について 3) 過去のリスク事例調査について
	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) 入り口管理ガイダンスWG 2) 啓発推進グループWG 3) 法規制対応WG
	LCA分科会幹事会	自動車部品会館	1) 中長期計画について 2) LCA日本フォーラム対応について 3) LCAデータベース更新検討 4) 使用段階の算出方法検討

5. 品目別部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
5月22日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO, JIS, JASO対応 2) 2015年版JATMA YEAR BOOK R 章改正について 3) ホイールの部品認証対応について 4) 自技会関係について
5月23日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) 2014年度規格委員会 電子電装部会合同会議出席について 3) 第65回ISO国際会議 アクションアイテム対応審議について 4) JASO DXXX高圧電線規格内容について
5月26日	レストイント部会	自動車部品会館	1) 平成25年度部会・委員会決算報告 2) 平成26年度部会・委員会活動計画・予算案 3) 平成26年度部会春季合同会議開催計画 4) 部会・委員会役員 部会派遣委員等について

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
5月29日	オイルシール 技術部会	自動車部品会館	1) JIS-ISO整合化作業について 2) ISO審議状況等
5月30日	GTB対応会議	自動車部品会館	1) 次回第117回GTB会議（5/12～16@グラナダ）の審議結果と今後の課題について
	ランプ部会	自動車部品会館	1) 「灯火器の型式指定基準及び技術基準に係わる解説書」の改訂・見直しの要否確認 2) ISO, JIS対応 3) インドAIS規格のアップデート要望項目の洗い出しについて 4) 2輪車用ランプ規則（UN-R50, R113）の国内採択について 5) 光源関連規則（UN-R37, R99, R128）の国内採択について 6) LPL規則（UN-R4）の国内採択について
6月11日	シートベルト分科会 幹事会	名古屋安保 ホール	1) CCAP訪問への対応
	エアバッグ分科会	名古屋安保 ホール	1) 2014年度分科会活動案 2) 高圧ガス保安法通産省対応状況 3) 韓国他法規情報 4) 模倣AB対応状況 5) レスト部会情報 6) JAMA, JAPIA他情報
	エアバッグ分科会 CE-WG	名古屋安保 ホール	1) 2014年度エアバッグ分科会CE-WG活動案 2) INERISと打ち合わせ事前 3) INERISと打ち合わせ
6月13日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録について 2) JASO DXXX高圧電線規格1次案について 3) 第65回ISO国際会議アクションアイテム対応について
6月13日 ～14日	シート部会合同会議	山形	1) 平成25年度部会・分科会活動報告 2) 平成25年度部会決算報告 3) 平成26年度部会・分科会活動計画案 4) 平成26年度部会予算案 5) 第18回シート技術研究発表会開催計画 6) 報告事項 基準認証部会関連、JASIC衝撃吸収分科会
6月16日 ～18日	シートベルト分科会中国 技術交流会	北京	1) CCAPとの技術交流会
6月17日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO, JIS, JASO対応について 2) 2015年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会関係について
6月24日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) CRS新法規への今後の対応について 2) 平成26年度活動計画案
6月25日 ～28日	ブレーキホース部会 (中国ミッション)	北京	1) CCAPとの打合せ（技術交流会） 2) CQCとの打合せ（技術交流会） 3) TMEC訪問、意見交換
	レストRAINT部会PR WG	自動車部品会館	1) 静岡県交通安全フェアへの出展について 2) 未認定品チャイルドシートへの対応について
	レストRAINT部会 合同会議	自動車部品会館	1) 平成25年度部会・分科会活動報告 2) 平成26年度部会・分科会活動計画 3) 平成25年度部会・分科会決算、平成26年度部会・分科会予算案 4) 部会・委員会役員 部会派遣委員等について 5) GRSP国際会議等JASIC関連報告 6) 基準認証部会関係報告 7) 講演会「先進事故自動通報システム(AACN)が起動するドクターヘリ」 益子邦洋氏
7月4日	電線部会	自動車部品会館	1) JASO DXXX高圧電線規格 1次案審議
7月7日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) 中国ミッション報告書取り纏め
7月10日	シートベルト分科会 幹事会	自動車部品会館	1) CCAPまとめ

自動車の技術と 事業のグローバル化 歩調を合わせて進化

Q

「知的財産権とは？」

A

一般にはあまり馴染みがないかもしれませんが、「知的財産権」という法的な権利があります。これをしっかりと守ることは、日本の自動車部品メーカーにとっても、事業を長期安定的に成長させていくためにはとても重要であり、各社個別の努力に加えて、業界としての活動も必要です。そのために、これに熱心に取り組んでいる20社によって運営されているのが、「知的財産権部会」です。

Q

「現在の活動ポイントは？」

A

知的財産権には、技術に関する特許権や実用新案権、ブランドに関する商標権、デザインに関する意匠権などがあります。世界レベルの技術力をもって世界で競争する日本の自動車部品メーカーにとっては、特に重要なものは、特許権と商標権です。もし、特許権や商標権が守られないと、せっかく苦労して新製品を開発しても、その陰で、第三者によって商標を

無断使用され、違法にコピー製品が作られてしまいます。これが模倣品です。模倣品は、アジア、中近東などのアフターマーケットで大量に流通していますが、品質が劣悪なものがほとんどなので、オイル漏れや発火、誤作動などを引き起こし、死亡事故にもつながります。

Q

「具体的な活動としては？」

A

こうした問題意識が高まり、2002年に知的財産権部会が設置されました。当部会は国際委員会の傘下にあり、2ヶ月に1回の頻度で開催されています。



オートメカニカ上海に出展（2013年12月）



知的財産権部会 部会長・鈴木 嘉浩

〔㈱デンソー 知的財産部長〕

模倣品の生産は中国が多数を占めると言われているので、ここ数年は毎年、中国各地に出張して取り締まり当局や税関などと折衝を重ね、模倣品製造業者の摘発を働きかけています。

また、模倣品の劣悪な品質の危険性をユーザーにしっかり認識してもらうため、中国最大の自動車部品ショー（オートメカニカ上海）に、ここ数年は毎年、会員企業10社程度と共同でブース出展し、模倣品の現物を見せたり、事故の映像を流したりして、多くの来場者に模倣品の危険性を直接アピールしています。これからは、この活動を中国以外のアジアや中近東にも広げていく予定にしています。

Q

「ほかの主な活動は？」

A

模倣品対策以外でも、知的財産権に関する活動はやるべきことがいろいろとあります。例えば、新興国における特許戦略の研究です。アジアを中心とする新興国では自動車生産の増加とともに、



上海海関（税関）表敬訪問
模倣品取り締まり強化を折衝（2013年12月）。右側JAPIAメンバー（手前から3人目が鈴木部会長）

現地での製品設計・技術開発の必要性が高まってきており、それとともに特許面でどういう施策を行うべきなのかの研究が必要です。2011年度は中国、2013年度はインドにおける特許関連の課題を研究し、報告書にまとめました。

日本の自動車部品メーカーが技術開発でグローバルに勝ち、それを事業での成功につなげる橋渡しとなるものが、知的財産権です。知的財産権部会の仕事は、自動車の進化と事業のグローバル化と歩調を合わせて、まだまだ増えていきそうです。

オンリーワンの技術と製品で 「ニッチ・異業種・グローバル」展開の 加速を図る

スタートはメッキ会社。
表面処理の技術追求から生まれた
「水を使わない消火器」で、
グローバルニッチトップ企業100選に!

吉田 英夫社長
趣味はゴルフとダンス。特にダンスは学生時代に全国大会にも出場した経験を持つ。「音楽の表現力、リズムの変化を感じることも必要だが、その音楽のルーツを知ることによってダンスの幅が広がってくると同時にものの見方が変わってくる」



会社プロフィール



本 社 〒359-0026 埼玉県所沢市牛沼607-6
TEL.04-2968-5700 FAX.04-2968-5715
URL <http://www.yp-system.co.jp/>
資 本 金 2,000万円
従 業 員 27名
事業所拠点 本社/東村山事業所、中国・上海（消火器工場／表面処理工場）
部 会 加 入 2009年
代 表 者 代表取締役 工学博士 吉田英夫

何事も技術追求をする姿勢から

1987年に吉田英夫社長が自信で設立した表面処理を行う会社がワイピーシステム。「メッキ会社は儲かるぞ!」とメッキ会社に勤務する父の話を聞いてはいたが、実態はよくわからない。さらに科学的なメッキのメカニズムを勉強していない吉田社長は顧客への事業説明にも都合が悪い。そこで吉田社長は東京農工大学大学院のメッキ研究を行う研究室の門をたたき、社会人ドクター課程でメッキを科学することに没頭。ついには次世代表面処理技術といわれる超臨界メッキ技術をNEDOから3億円の研究費をえて、同大学と産学連携により確立し、工学博士を得る。

二酸化炭素洗浄機が生まれた理由とその結果として

社会人対象の博士課程に在籍しながら、もちろ

ん会社社長業もこなすという文字通り2足のわらじ。昼間は会社、夜から夜中にかけて研究にまい進し、研究費の助成を次々に獲得。開発した技術を自社のビジネスへも展開し、一つの画期的な製品を世に送り出した。「二酸化炭素洗浄機」がそれだ。この新製品が同社の事業に与えた影響は計り知れない。

ただし製品自体が飛ぶように売れたわけではない。この二酸化炭素洗浄機は、超精密加工表面の洗浄のために使われるが、排水が出ない、油やほこり、酸化被膜の複合的な汚れを落とす洗浄機。液化した炭酸ガス＝ドライアイス粒子をガンで飛ばして洗浄に使用するわけだが、この洗浄機のあるユーザー工場でボヤが出たときのこと。ドライアイス＝二酸化炭素だからボヤぐらいは消せるのでは、と工場の作業員のとっさの判断でこの洗浄機のガンを火元に向けた。すると、簡単に火が消えたという。この偶然の産物から得たヒントで吉

田社長は、全く畑違いの分野で花を開かせる。

元気なもののづくり中小企業に選定

「水が使えない場面で、消火器の代わりに使える!」こう聞いた吉田社長は早速、製品開発にのめり込んだ。2005年、これも助成金事業により二酸化炭素消火器具に指定され、開発を加速。2007年、これまでにない新製品として「消棒」「消棒miny(ミニ)」を相次いで発売開始し、同社の新たな事業の柱として急成長。表面処理会社と消火器—この何もつながりのなさそうな分野が繋がった瞬間だ。

「消棒」は、日本消防検定協会認定のNSマーク付き。ドライアイスで消すので消火後に汚れず、二次被害もないため、工場や生産現場、研究開発拠点、電子機器火災に最適という。また車両やトラックなど荷室の火災にも対応し、用途はかなり広い。またこうした製品投入により経済産業省「グローバルニッチトップ企業100選」「元気なもののづくり中小企業300社」に選定されたほか「日刊自動車新聞用品大賞」などいくつものアワードで表彰された。

本業の技術追求で異業種参入と未来への展開

「水や消火剤を嫌う環境での火災への備えはこの『消棒』シリーズで万全を期してほしい。さらに今後はEV充電器設備やサーバーなど無人で監視の目の行き届かないような場所に自動消火器として設置を広げ、監視機能とともに展開すれば火災発生

のモニタリングが可能となる。火災発生場所の早期発見と初期段階からの対応で火災での社会的損失を大幅に減少できる」と吉田社長は社会貢献事業としての拡大を目指している。

本業からのスピンアウトから生まれた、水を使わない消火器「消棒」シリーズ。今では車載用は多くの自動車メーカーの純正用品として指定されている。カーユーザーの安全を守るアイテムとして自動車ディーラーでも積極的な提案が行われ、事業は着実に伸びている。

グローバルも含め展開の加速と拡大へ

同社では表面処理工場を中国に設置済みだが、「消棒」シリーズも今後はグローバル展開を検討している段階という。

こうしたオンリーワン商品、技術を保有する同社だが3つの手段を事業展開の大きな柱に据えている。①非常にニッチな市場でシェアを高める。②本業の基盤技術を応用して、異業種への展開を図る。③大きな市場を求めて海外展開を図る。

この手段を定める要因は「町工場の生き残り」を真剣に考え抜いた結果だという。もちろん前提となる条件としては社員の幸福、同社とかかわる人たち、企業などとの満足の共有がある。また「3つの手段」を実現するという「夢」を共有する「ハートとマインド」が日本で、そして世界で拡大することが吉田社長の大きな目標である。



製品紹介

消棒RESCUE

車載用消火器としての機能だけではなく、緊急脱出機能であるガラス粉砕機能とシートベルトカッターを装備した複合機種。世界初の3機能搭載型となる。一部カーメーカー純正用品となっている。ガラスを割る、シートベルトを切ることを簡単にできるように工夫を重ね、これらも開発技術の蓄積としてこだわりが詰まっている。



改めてよろしくお願ひいたします

JAPIA北米事務所 河島 哲則

月刊自動車部品は本号からJAPIA NEWSとしてリニューアルされました。北米事務所だよりは引き続き皆様に向けて書かせて頂けることになりましたので、会員企業の皆様、改めてどうぞよろしくお願ひいたします。

リニューアル、仕切り直しということですから、本号ではJAPIA北米事務所について紹介させていただきます。北米会員の皆様も駐在者は数年毎に交代なさいますから、北米事務所をご存じない方も少なからずおいでかもしれません。

JAPIA北米事務所はミシガン州ノヴァイ市(Novi, MI)へ2004年にイリノイ州シカゴより移転開設されました。ノヴァイ市はデトロイト市から北西に約45km郊外にある町です。ミシガン州で最も日本人在住者数の多い町で、2014年1月現在ミシガン州に在住する日本人約12,000人のうちおよそ3,000人がここノヴァイに住んでいます。日本人補習校もここにあり、毎週土曜日には多くの子供たちが通っています。とはいえ広くて車社会の米国ですから道路で日本人を見かけることはありませんが、それでも市内にある日本食材店はいつも多くのお客で賑わっています。

今年はノヴァイ市に北米事務所を開設して10周年という記念すべき節目の年です。北米事務所の

活動についてご紹介いたします。

米国、カナダ、メキシコの北米3カ国に事業所をお持ちの会員企業に当事務所が提供するサービスには主に2つの種類があります。ひとつは情報のご提供、もうひとつは北米会員企業に情報交換・懇親の場を提供することです。この他、米国、カナダ、メキシコそれぞれの自動車部品工業会MEMA(OESA)、APMA、INAとの交流を通じて現地の自動車部品サプライヤーとJAPIA会員との交流を促進すること、北米3カ国の法規制や会員企業の北米事業展開について専門家を招いて講演会を開催することなどにも力を入れております。

10年前に当事務所が開設されたときには少なかった会員企業のメキシコへの進出も今では米国やカナダを遥かに超えるペースで拡大しています。今後ますます自動車産業の拡大が見込まれるメキシコは未成熟な産業インフラの整備がこれからの課題となります。北米事務所では専門家の力を借りながら会員企業の北米進出、北米事業所における人材の雇用、北米での現地調達拡大などについてのご相談を受けることも少なくありません。

北米会員の皆様のお役にたてるサービスを提供するために今後とも全力で努めて参ります。どうぞ改めてよろしくお願ひいたします。



北米事務所が入居するオフィス



北米事務所内で筆者

世界ベテラン卓球大会に出場

日本発条株式会社 斉藤 浩明さん

6回目の出場

5月12日から17日までニュージーランドのオークランドで開催された「第17回世界ベテラン卓球選手権大会」に出場しました。斉藤さんは長年にわたり卓球を続けており、この大会も、横浜、ブレーメン（ドイツ）、リオデジャネイロ（ブラジル）、フフホト（中国・内モンゴル自治区）、ストックホルム（スウェーデン）と続けて出場してきました。

ダブルスは山田たかおさんとのペア

シングルスは、四人の予選リーグを行い、上位2名が決勝トーナメント、下位2名がコンソレーション（敗者復活戦）に進みます。斉藤さんは、不戦勝を含めて2勝1敗となり、2位で決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメントは2回戦で敗退しました。

斉藤さんはダブルスにも出場しました。斉藤さんのダブルスのパートナーは、日本テレビ系で放映されている「笑点」の座布団運びでおなじみの山田たかおさんです。横浜大会で直接対決したのをきっかけに、リオデジャネイロ大会からずっとペアを組んでいます。今回、予選は1不戦勝2敗でコンソレーションに進み、その1回戦でオーストラリアのペアに勝



山田たかおさんとのダブルス。オーストラリア、ニュージーランドの選手と対戦（1ペアは棄権）



コンソレーションでの勝利。この試合は落語家の三遊亭小遊三さんが審判を務めた

ちました。この試合については「笑点」の中で山田さんが話したほか、TBS系の「駆け込みドクター」でも紹介されました。

年齢を重ねても楽しめる

この大会は、元世界チャンピオンなども出場するなど、世界60ほどの国から1,600人を超える選手が出場します。40歳から10歳または5歳ごとの年代別で競います。上は100歳を超える元気なお年寄りもいます。斉藤さんは「世界の卓球愛好者と交流できることはとても楽しい」と話しています。斉藤さんは地域の卓球協会の役員を務めるほか、横浜や故郷の長野の大会などに出場するなど日頃から卓球を楽しんでいます。世界ベテラン卓球大会については、次回、スペインとのことで、斉藤さんは今から楽しみにしています。これからもますますの活躍が期待されます。



シングルス予選リーグ。ロシア、ニュージーランドの選手と対戦



日立オートモティブシステムズ阪神株式会社
取締役社長・坂本 哲也

当社は神戸で創業以来、主力の生産拠点を三田に移してお客様の国内、海外向の要請に対応してきた。会社のスローガンも「神戸から世界を目指そう」でずっとやって来たがここ数年の顧客からの海外生産要請に応えるべく、中国、メキシコ、インドの海外生産を加速させている。

それぞれの生産準備プロジェクトで気づいたこと、感じたことを紹介したい。

1. 中国

上海市内から車で1.5時間程北西に位置する江蘇省常熟市に2011年4月に操業を開始した。日系企業が進出する大きな工業団地ではなく、ローカル企業が入る小さな工業団地を選んだ。理由は中国ローカルメーカの同業と競争するためには「虎穴に入らずんば…」の精神だった。従業員も弁当持参の徒歩、自転車通勤圏内から採用する方針だったので、食堂や寮は作らなかった。当初日本人出向者や出張者は工場の近くにあった1軒のローカル食堂に通っていたが、衛生面も味付けも相当なものだったらしい。

そこは関西人のたくましさか、日本からしょう油、ソース類を持ち込んで料理教室を開催して日本風味付けメニューを作らせることに成功した。残念ながら衛生状態は改善されなかったが、社内外のお客様には好評を博していた。操業以来、約3年が経過して従業員も100名を超えたところで、さすがに寮、食堂を新設したが心配していた品質面も安定して業績面でも計画よりも早く目標を達成することが出来た。従業員も皆まじめで社員旅行や日本研修を楽しむモチベーションが高く、新聞、TVで報道される反日デモとのギャップに驚いている。

2. メキシコ

メキシコシティから西に約80kmのトルーカ市郊外にある同じグループ会社の生産拠点で2012年7月に操業を開始した。メキシコシティが海拔2,000m

のところであり、工場までの途中には海拔3,000mの峠を越えて行く。空気が薄いので米を炊く場合、炊飯器は役にたたず、圧力釜を使うとのこと。初めてメキシコを訪問したのは約10年前になるが相変わらず治安は改善されておらず、今でも日本人出向者はバスやタクシーには乗らないように指導されている。

従業員は至って明るいメキシカンで非常に親日的である。スペインの植民地であった関係か、混血の人も多く、特に混血の女性はすなりとして美人が多いと思う。ただしあくまで日本人の感覚でメキシコ人の感覚は純メキシカン特有のややふくよかな女性美人の基準とか。

近年の自動車メーカ、自動車部品メーカの進出は目覚しく北米、南米の輸出拠点として位置づけられているようだ。

我々のグループだけでもここ数年で製造拠点が4拠点到拡大されており、今後の成長を期待している。

3. インド

2015年の操業に向けてチェンナイ市郊外に建屋が間もなく完成する。

当社はもとよりグループとしても初のインド生産拠点であり、手探り状態の中でプロジェクトが発足した。現地調査のために出張したメンバーはほぼ全員がお腹をこわして帰って来る。最近、日本人出向者の第一陣が赴任したが暑さと食事で相当苦労しているらしい。従業員の採用を開始したが身分制度がまだ残っており、相当苦労している。間もなくインド人の実習生を受け入れるが宗教上の理由から食材の制限が多く受入れ側も頭を悩ませている。またインド人のメンタリティをよく理解できておらず工場運営にどう反映させるかも手探り状態だ。部品工業会のインド進出企業の皆様の経験をご教示頂ければと思っている。グループとして初のインド拠点で当社の製品が生産第一号なので責任重大だが何とかプロジェクトを成功させるべく頑張っている。



浜名湖電装株式会社
取締役・小林 康規

今、走りながらこの原稿を考えています。色々と考えを巡らして走っていると、いつの間にか長い距離を走っています。大体走りながら考えた事は、忘れてしまいます。但し今回は『ずい筆』を書かなくてはいけないので走り終わったら、直ぐにメモしなくてはと思っています。(5月某日)

私が週末走るようになったのは、6年ほど前で腹囲が84cmをオーバーした頃からです。Wii Fit→ウォーキング→ランニングへと続けてきました。今では週末に合計40kmは走るようにしています。腹囲も74cmと10cmダウンしました。続ける事が出来たのは、ランニングを始める前にWii Fitとウォーキングで体幹を鍛えて、体重を落とした効果が大きいです。結果、膝等への負担も少なくすみ、腰痛、膝痛等の痛みも無くランニングが出来ました。ランニングの痛みよりも「ランナーズハイ」や「セカンドウィンド」の効果の方が大きかった？ 因みに「セカンドウィンド」は「激しい運動などによって息切れした後で元の正常な状態に回復したひと息ついた楽な状態」の事です。

それとは別に、ランニングで色々な変化を楽しむ事が出来たことも、ランニングを続けられた大きな効果だったと思っています。

走るようになってからは、色々なコースを自分で決めて走っています。山へ向かって走ったり、海へ向かって走ったりしています。天気の良いと海からの朝日を見に行くこともあります。近隣でも、車では通らなかった道も走るの、新たな風景を見つける事もあります。

また、ランニングと車とではスピードが違うので、大きく景色が変わります。車では気づかなかった景色を気づく事が出来ます。近くの家の前のかわいい置物や、小さな茶店など。最近、信号待ちで、アイドルストップの車が相当増えた事に気づきました。

でもやはり一番変化を感じるの季節です。最近では田植えがほぼ終わったようです。田んぼは、ほとんど緑になりました。田園風景と山の景色がきれいです。また桜の季節には必ず桜がきれいなところへ行って走っています。今年はちょうど雨が降っていて、雨の中の桜もきれいでした。こうした変化を楽しみつつ健康管理とストレスの発散をしています。

ところでこの6年間は、会社でも変化の大きな6年で

した。リーマンショックに東日本大震災等、特に震災の時は大変でした。代替製品や代替材の準備、評価等、いろいろ経験をさせてもらいました。リスク管理の重要性も身をもって感じました。次のタイの洪水の時は慣れもあり、大きな乱れはありませんでした。今は円安で事業環境は良化しましたが、海外進出や拡販で暇になることはありません。

こうした社会や会社全体の変化に加え、会社ではローテーション等の個人の仕事の変化もあります。私が最初に大きな変化を感じたのは、やはり19年間担当した製品を離れ、新しい製品を担当した時です。この時は、さすがに自分が設計した製品ではないので、顧客の前でも冷や汗たらたらでした。いつものつもりで出張しても顧客の方がシステムや製品の使われ方の知識が豊富で、質問に上手く答えられませんでした。でもそうした経験をする、次の機会は答えられるようにと、予備知識をしっかりと勉強しました。新入社員以来の自分のノートも一冊つくり、何でも書き留めたり関係資料を貼り付けたりしました。

19年間ローテーションのなかった私にとっては大変新鮮な経験でした。顧客に教えられることと同時に、この時ローテーションについても重要だと感じました。やはり一つの仕事を続けて達成感を得る事も必要ですが、技術的にも人間的にも成長するためにはローテーション(変化)は必要だと考えます。その後はいろいろな製品を担当しました。

但し大きな変化があると、大変なピンチもあります。その時はランニングと同様、つらくなった時はあまり遠くの景色は見ず、足下をしっかりと見て走っています。そうすると意外にまだまだ走る事が出来、いつのまにか相当な距離を走っています。「セカンドウィンド」の状態になってから、将来に向かって遠くの景色をしっかりと見つめながら走った方が良いと思います。

実はこの『ずい筆』が読まれる頃には、私は会社での担当が変わっていると思います。ダーウィンの『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である』と言う名言がありますが、出来れば変化を苦痛と考えず、仕事もランニングのように変化があることを楽しみながら走りたいと思います。

行政・団体

6月.....

■自動車各社、設備投資で国内回帰の動き、経産省調査(7日)
経済産業省の調査によると、自動車など輸送用機械器具で「今後3年間に国内設備投資を増やす」と回答した企業の割合は3割を超え、昨年調査の17.9%を約15ポイント上回った。

■部工会加盟上場82社、13年度は大幅な増収増益(12日)
日本自動車部品工業会は、上場部品メーカー82社の業績動向をまとめた。2013年度は為替の影響や好調な海外事業、国内の消費税引き上げ前の駆け込み需要などにより売上高が前年度比16.3%の増加となるなど大幅な増収増益だった。14年度は売上高、営業利益は微増、当期純利益は減少する。

■自民、FCV普及へ提言(14日)
自民党は、水素社会の実現に向けた提言をまとめた。現状で1台が1000万円弱とされる燃料電池自動車(FCV)について、2025年に200万円台まで段階的に価格を引き下げ、20年に年間4万台、30年には同40万台の販売を目指す。また、水素ステーションは20年に150拠点、30年には1000拠点へ増やす。

■水素社会の実現へ、経産省がロードマップ案(23日)
経済産業省は、水素社会に向けたロードマップ(行程表)案をまとめた。環境負荷の低さやエネルギー安全保障の強化など水素社会の利点を挙げたうえで、2020年、30年をめどとした定置用燃料電池や燃料電池自動車(FCV)の普及目標を設定。

7月.....

■経産省、FCV用水素供給拠点四大都市圏に戦略地域(1日)
経済産業省は、燃料電池自動車(FCV)用水素ステーションの整備方針を見直す。

■国交省、予防安全装置の自動車アセス追加(4日)
国土交通省は、自動車アセスメント試験に追加する予防安全装置についてのロードマップ(行程表)をまとめた。車両周囲の視界を補助する装置は2015年度、歩行者を検知する被害軽減ブレーキ(AEB)や車線をはみ出しそうになると操舵を修正する装置などはそれぞれ16年度から試験を行い、結果を公表する。

■経産省、クリーンエネルギー車導入補助金申請受付開始(4日)
経済産業省による「クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金」の今年度分の申請受け付けがこのほど始まった。今年度は、新たに申請者に対して「暴力団排除に関する誓約」を義務付けたほか、申請者が法人(リース会社も含む)の場合、役員名簿の提出が必要になった。予算は約300億円。

■中部経産局、ホンダ向けに展示商談会 11月に中小の部品技術紹介(12日)
中部経済産業局は、11月をめどに中部の部品各社がホンダ向けに製品、技術を紹介する「あいち・ぎふ・みえ『新技術、新工法展示商談会』in HONDA」を開催する。

■上期の車両盗難、直近ピークの1/3に(15日)
警察庁は、2014年上期(1~6月)の犯罪発生状況をまとめた。自動車盗の認知件数は前年同期比25.5%減の7959件。

■総務省、ICT活用の自動走行システム公募(15日)
総務省は、国家プロジェクトとして開発に取り組む「自動走行システム」のうち、「ICTを活用した次世代ITS(高度道路交通システム)の確立」に関する提案を公募する。

■自工会会長、回復気配の新車市場 なお慎重な見方(16日)
日本自動車工業会の池田彦会長(ホンダ会長)は定例記者会見で、国内新車市場の消費増税前に発生した駆け込み需要の反動減について特に地方を中心とした軽自動車の落ち込みが大きい。(今後の需要回復は)7~9月の状況を見たい」と述べ、市場の先行きに慎重な見方を示した。

■来年の東京モーターショー、開幕3週間前倒し(16日)
日本自動車工業会は第44回東京モーターショー2015年の開催概要を発表した。15年10月29日から11月8日までの11日間、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催する。

クローズアップ①



トヨタFCV

トヨタ自動車は、2014年度中に新型燃料電池車(FCV)を価格700万円程度で発売する。14年末にも量産を開始し、市場導入する。トヨタ店とトヨペット

店で取り扱う。欧米では15年夏頃に販売を開始する。新型のFCVは約3分で燃料の充填が完了、補給1回当たりの航続距離は約700kmとなる。(6月26日)

■農水省、バイオ燃料補助打ち切り(17日)
農林水産省は「バイオマス(生物由来)燃料生産拠点確立事業」の補助金を今年度限りで打ち切る方針を決めた。

■シーテックジャパン2014開催概要を発表 最先端技術が終結(19日)
情報通信ネットワーク産業協会(佐々木則夫会長)と電子情報技術産業協会(山本正巳会長)、コンピュータソフトウェア協会(荻原紀男会長)で構成するシーテックジャパン実施協議会は、10月7日から開催する「シーテックジャパン2014」の開催概要を発表。

■経産省、EV・PHV補助金継続 16年度以降も販売後押し(22日)
経済産業省は、電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド車(PHV)向けの車両購入補助を2016年度以降も続ける方針を固めた。

■国交省、認定制度継続 制度設計を先送り(25日)
国土交通省は、超小型モビリティの制度設計が当初のめどだった2016年度から2~3年遅れるとの見通しを明らかにした。

国内

6月.....

■タカタ、エアバッグ技術応用したパッド入りチャイルドシート(7日)
タカタは、側面衝突時の安全性を高めたISOFIX方式のチャイルドシート「04-i fix WS」を7日から順次発売。

■トヨタとパナソニック、クルマと家電を接続する新サービス(10日)
トヨタ自動車とパナソニックは、自動車の位置情報を基に家電機器のリモート操作を可能とするなど、クルマと家電をつなぐ新しいサービスを今年後半から提供。

■トヨタ、自動運転で明言(18日)
トヨタ自動車は、愛知県豊田市の本社で第110回定時株主総会を開催した。注目度の高い自動運転は「トヨタは、ドライバーが関与しない完全運転は商品化しない」(加藤光久副社長)と明言。

■トヨタ、テレマティクス全面刷新(19日)
トヨタ自動車は、テレマティクスサービス「G-BOOK」を全面刷新し、新サービスとなる「T-Connect(コネクト)」を導入する。

■日産の軽、将来は自社生産(25日)
日産自動車のカルロス・ゴーン社長兼最高経営責任者は、定時株主総会で「将来的には軽自動車を日産の工場で生産する」と述べ、軽自動車生産に参入する方針を公式表明。

■いすゞ、ミドリムシ由来の次世代バイオ燃料共同研究(26日)
いすゞ自動車は、バイオ燃料ベンチャーのユーグレナと、微細藻類ミドリムシ由来の次世代バイオディーゼル燃料を実用化するため共同研究することで合意。

クローズアップ②



ASKnet、世界最小販売に意欲

FOMM (フォーム、鶴巻日出夫社長、川崎市幸区) が開発、製造したEVで、来秋タイでの販売を予定している。タイでの量産のめどがついた時点で、アスクネット会員工場での販売に取り組む見込みだ。(7月9日)

三井住友海上火災保険の整備業代理店で構成するASKnet (アスクネット、鈴木啓一会長) は、超小型電気自動車 (EV) 「FOMMコンセプトOne」の販売に乗り出す。同車は、

■日産&ダイムラー協業拡大 (28日)

ルノー・日産アライアンスと独ダイムラーは、メルセデス・ベンツとインフィニティ向け次世代コンパクトカーを共同開発し、メキシコで共同生産する協力体制を拡大。

7月.....

■2014用品大賞、グランプリに「ビッグXプレミアム」選出 (2日)

日刊自動車新聞社は、2014年の「用品大賞」グランプリにアルパイン/アルパインマーケティングの、市販用ナビ「ビッグXプレミアム」を選出。世界最大となる10インチ大画面を採用したことなどを評価した。また、今回新設した準グランプリには住友ゴム工業の「エナセーブ100」を選出した。このほか、11部門17製品を部門賞に、特別賞として4製品を選定した。

■NECと花王、耐久性高めた難燃性バイオプラ開発 (3日)

NECは、花王と共同で約75%の植物成分率を有しながらも耐久性に優れた難燃性ポリ乳酸複合材 (難燃性バイオプラスチック) を開発した。

■日立金属、MMCスーパーアロイの株式過半数取得 (4日)

日立金属は、三菱マテリアルからMMCスーパーアロイ (岡勉社長、埼玉県桶川市) の発行済株式の51%を取得し、子会社化した。航空機・エネルギー材料事業の強化が狙いで、将来的な発展が見込まれる基幹産業分野での事業拡大を目指す。

■ヨロズ 栃木県小山市に「グローバルテクニカルセンター」開設 (5日)

ヨロズは栃木県小山市に開発・技術センター「ヨロズグローバルテクニカルセンター (YGTC)」を稼働させ、取引先や報道関係者に公開した。

■昭和電工子会社、リチウムイオン電池用フィルムの生産能力3倍に (10日)

昭和電工パッケージング (田中淳社長、神奈川県伊勢原市) は、彦根工場 (滋賀県彦根市) のリチウムイオン電池向けアルミラミネートフィルム (ラミフィルム) の生産能力を2010年比で3倍に拡大した。

■ダイハツ「ミライース」35.2km/ℓ達成 (10日)

ダイハツ工業は、軽乗用車「ミライース」でガソリン車 (ハイブリッド車を除く) 最高燃費となる35.2km/ℓを達成、一部改良車として発売。

■ルネサス、グループ4社の設計開発機能再編 (11日)

ルネサスエレクトロニクスは、グループ内で重複している設計開発機能を移管、統合して体制を再編する。

■双葉電子、三光合成と資本提携 (14日)

双葉電子工業は、三光合成との間で資本業務提携を締結した。

■NECショット、LiBの封止技術、自動車向けに実用化 (15日)

NECショットコンポーネンツ (武富正弘社長、滋賀県甲賀市) は、車載用リチウムイオン電池 (LiB) 向けに特殊ガラスとアルミニウムを用いた新たな封止技術を開発した。

■PEVE、宮城に第3工場建設 ニッケル電池の生産拡充 (16日)

プライムアースEVエナジー (PEVE、鈴木茂樹社長、静岡県湖西市) は、2015年秋までに宮城工場 (宮城県大和町) に第3工場を建設し、ニッケル水素電池の生産能力を拡充する。

■沖エンジ、工場内外のナノ粒子を計測・分析 (16日)

沖電気工業グループの沖エンジニアリング (浅井裕社長、東京都練馬区) は、半導体などナノマテリアルを使用する生産拠点向けに工場の室内外に浮遊するナノマテリアル粒子を計測、成分分析するサービスを開始した。

■トヨタ系部品メーカー、国内生産、先行き不安改善へ (17日)

トヨタ系部品メーカーの間で、国内生産の先行きに対する心理が改善しつつある。現在は、トヨタ自動車の国内生産に換算して年270万台のラインまで損益分岐点を引き下げようとしている企業が多い。

■2035年に量産車からハンドルの削減 IEEEが研究者ら意見調査 (18日)

世界各国の技術専門家40万人以上で組織するIEEE (アイ・トリプル・イー) は、自動走行車の未来について、研究者や行政機関職員などの意見調査結果を発表した。

■タカタ、エアバッグのリコールで特損450億円 (22日)

タカタは、自動車メーカーが6月に発表した助手席エアバッグのリコールに関連し、2015年3月期第1四半期 (4～6月期) に約450億円の特別損失を計上する。

■SABICジャパン、PC樹脂グレージング 軽量コンセプトカーで採用 (23日)

サウジ基礎産業公社 (SABIC) の日本法人SABICジャパン (丸山剛社長、東京都千代田区) は、フォード・モーターとマグナ・インターナショナル (カナダ) が共同開発したマルチ・マテリアル軽量化コンセプト車「MMLV」にSABICのポリカーボネート (PC) 樹脂グレージングが採用された。

■大同特殊鋼、高弾性チタン合金「TNCZ」を開発 (23日)

大同特殊鋼は、しなやかさと冷間加工性を改善した高弾性チタン合金「TNCZ」を開発し、サンプル品の提供を始めた。

■オーストリアのams、車載用センサーで日本に設計拠点 (25日)

アナログ半導体を手がけるams (本社=オーストリア) は、年内に日本に車載用センサーの設計拠点を設ける。

海外

6月.....

■日産、南アにダットサン、インドから完成車輸入 (11日)

日産自動車は、南アフリカ市場に「ダットサン」ブランドを導入する。

■豊田鉄工、米に富士重専用工場 (17日)

トヨタ系部品メーカーの豊田鉄工は、2016年をめぐりに米インディアナ州に富士重工業向けに車体プレス部品を供給する新工場を設置。

■セーレン、メキシコに内装材生産の新会社 (26日)

セーレンは、米子会社のセーレンUSAとの共同出資でメキシコに自動車内装材などを製造・販売する新会社を設立。

■日産、米工場にインフィニティとベンツ向け2.0ℓターボの生産開始 (28日)

日産自動車は、米国テネシー州デカードに新設したパワートレーン工場で、「インフィニティ Q50」とダイムラーの「メルセデス・ベンツCクラス」向け2.0ℓターボエンジンの組み立てを開始。

■富士重工業、米国での調達先見直し (15日)

富士重工業は、米国工場の生産能力増強に合わせ、部品を調達しているサプライヤーの供給体制を見直す。

7月.....

■デンソー、メキシコ事業を拡充 変速機用部品生産 (1日)

デンソーは、メキシコ事業を拡充すると発表した。生産子会社デンソー・メキシコ (DNMX) の第1工場を拡張し、2015年12月から変速機用部品を生産する。

■オン・セミコンダクター、イメージセンサー企業を400億円で買収 (1日)

米オン・セミコンダクターは車載・産業市場向けのCMOSイメージセンサーを手がけるアプティナイメージング社の買収について最終合意を結んだ。買収額は4億ドル (約400億円)。

■大同特殊鋼、インドの特殊鋼メーカーに資本参加 (10日)

大同特殊鋼は、インド・サンフラッグ (ナグプール市) の第三者割当増資を引き受け、増資後発行済株式の10%を保有することで合意した。

■西川ゴム、車体シール増産 メキシコ工場を拡張 (24日)

西川ゴム工業はメキシコ・グアナフアト州に新設した車体シール工場を2016年にも拡張する。工場建屋を増設し、従業員数を現在の2倍の800人に増やす。

■富士機工、米子会社の労使紛争が和解 (25日)

富士機工は、米ミシガン州の子会社、ダグラス・オートテック・コーポレーション (以下、米子会社) とUAW (全米自動車労組) との労使紛争が和解し、18日付で米連邦裁判所への提訴を取り下げた。

市 場

6月.....

■5月新車販売、登録車販売5.6%減、受注残で明暗 (2日)

日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車協会連合会が発表した5月の新車販売台数は、2カ月連続で減少した。

■5月軽自動車販売、プラスを維持 (3日)

全軽自協が発表した5月の軽自動車販売は、前年同月比5.3%増の15万6464台で11カ月連続のプラスとなった。シェアトップは2カ月連続でスズキ。

■5月車名別新車市場、タントが連続で首位 (6日)

日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車協会連合会は、5月の乗用車通称名別販売ランキングを発表。総合首位は2カ月連続でダイハツ工業「タント」。スズキ「ワゴンR」が2位となり、14カ月ぶりにトップ3にランクイン。

■5月新車、米・中で全社プラス (11日)

日本の乗用車メーカーによる5月の日本、米国、中国における販売台数がまとまった。国内市場は消費税率引き上げによる反動減の影響が出た4社がマイナスとなったものの、米国、中国市場では全社が前年同月実績を上回った。

■乗用車メーカーの5月生産・販売・輸出実績、国内生産7社が増 (28日)

国内乗用車メーカー8社は、2014年5月の生産・輸出・販売実績を発表した。8社合計の国内生産台数は、前年同月比6.1%増の73万389台と9カ月連続で前年を上回った。

7月.....

■自工会統計、5月の国内生産6%増の77万台 (1日)

日本自動車工業会は、5月度の国内生産実績が前年同月比6.1%増の77万4039台となり9カ月連続のプラスになった。

■5月輸出、9.6%減 (1日)

日本自動車工業会が発表した自動車輸出実績は、四輪車の輸出台数が前年同月比9.6%減の32万1711台で、6カ月連続マイナス。

■6月市場、新車3カ月ぶりプラス転換 受注減の厳しい状況変わらず (2日)

日本自動車販売協会連合会 (自販連) と全国軽自動車協会連合会 (全軽自協) が発表した6月の新車販売台数は前年同月比0.4%増の45万2555 台となり、3カ月ぶりにプラスに転じた。

■1～6月の日米中販売、4社が3市場で前年超え (11日)

日本の乗用車メーカーの日本、米国、中国における2014年1～6月の販売がいずれの市場でもおおむね好調に推移している。

■鍛圧機械受注額11%増 自動車向け好調 (18日)

日本鍛圧機械工業会は、昨年12月に公表した2014年 (1～12月) の鍛圧機械受注額予想を上方修正した。

■東南ア3カ国のアフター市場、年平均13%の高成長 (19日)

米国の市場調査&コンサルティング会社、フロスト&サリバンはインドネシア、タイ、マレーシアの東南アジア3カ国の自動車アフターマーケット部品市場が2018年まで年平均12.9%増と高い成長を示すとの市場予測を公表した。

記者の目

不具合品を絶対に出さない覚悟

国内外の自動車メーカーで大量リコールを届け出る事例が増えている。不具合が発生する原因には設計に欠陥がある場合と、製造過程でのミスによる場合と二つに大別されるが、最近では制御プログラムの欠陥による不具合も増えており原因は多様化している。

リコール隠しなど特殊な例は別として、以前はリコールそのものがマスコミに大きく取り上げられることはあまりなかった。ところが最近では、台数が桁外れに大きく、その規模にマスコミの関心が集まっている。大量リコールの背景には部品の共通化があり、部品メーカーも大きな負担を強いられる構造になっている。

回収・修理の費用は通常、自動車メーカーと部品

メーカーが分担するが、自動車メーカーにとって問題は金銭面だけではない。あまりに大量だったり頻度が多いと企業イメージの低下やブランドの毀損につながる恐れがある。「○○自動車は最近品質が悪いんでしょ？」という消費者は実際に存在する。

だが、その一方で自動車メーカーは開発費の削減を狙って部品の共用化を加速させている。使用実績のある部品を使う方が品質は安定するという理由もそこにはある。この際、メーカーはリコールが起きた時のことは考えないという。部品メーカーの立場としては、不具合品を絶対に流出させない覚悟が自分の身を守るためにも必要なことだろう。(K)



このダイジェストは6月1日～7月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連記事を抜粋。詳しくは日刊自動車電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1. 四輪車の生産実績

（単位:台）

	14. 4月分	対前年同月比 (%)	1月よりの累計	対前年同期比 (%)
乗 用 車	652,490	103.3	2,937,311	110.3
普 通 車	364,764	98.9	1,602,385	106.4
小 型 四 輪 車	136,270	100.0	642,745	104.7
軽 四 輪 車	151,456	119.8	692,181	127.7
ト ラ ッ ク	107,563	105.0	451,102	107.4
バ ス	10,431	93.0	46,200	103.6
合 計	770,484	103.4	3,434,613	109.8

2. 四輪車の国内販売実績

（単位:台）

	14. 4月分	対前年同月比 (%)	1月よりの累計	対前年同期比 (%)
乗 用 車	292,826	94.9	1,882,936	115.9
普 通 車	75,636	83.1	584,158	119.4
小 型 四 輪 車	89,850	93.0	562,749	104.9
軽 四 輪 車	127,340	105.3	736,029	122.9
ト ラ ッ ク	51,757	92.9	302,181	114.3
バ ス	643	71.4	4,766	105.7
合 計	345,226	94.5	2,189,883	115.7

3. 四輪車の輸出実績

（単位:台）

	14. 4月分	対前年同月比 (%)	1月よりの累計	対前年同期比 (%)
乗 用 車	322,129	92.9	1,253,011	95.1
普 通 車	298,931	101.1	1,166,179	104.2
小 型 四 輪 車	22,836	44.7	85,518	43.2
軽 四 輪 車	362	3290.9	1,314	422.5
ト ラ ッ ク	41,594	107.4	155,237	99.7
バ ス	12,101	103.4	46,999	101.5
合 計	375,824	94.6	1,455,247	95.8

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位:百万円）

		2014. 3月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総括	自動車部品 41品目	560,551	105.6	1,645,765	107.7
	関連自動車部品 9品目	115,412	110.8	335,653	111.3
	内燃機関電装品 5品目	34,583	107.4	101,154	111.7
	二輪車部品 4品目	6,005	107.1	18,742	113.8
	合 計	716,551	106.5	2,101,314	108.5

指標・統計

			2014. 3月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,699	105.4	10,713	106.5
	2	ピストンリング	3,563	107.9	10,191	110.3
	3	シリンダーライナ	1,916	112.2	5,574	112.8
	4	吸気弁及び排気弁	3,579	96.0	10,839	101.4
	5	ガスケット	2,524	95.8	7,541	100.9
	6	燃料ポンプ	2,176	90.3	6,261	96.6
	7	空気清浄器	1,969	72.2	5,799	79.4
	8	油清浄器	2,006	93.8	5,685	84.8
	9	油ポンプ	2,564	111.8	7,562	113.7
	10	水ポンプ	2,383	90.3	7,043	92.6
	11	ラジエータ	18,180	105.3	56,905	114.6
	12	クラッチ装置	5,650	100.3	15,887	103.6
	13	自動変速装置	183,482	104.6	537,765	106.6
	14	ユニバーサルジョイント	3,568	114.0	10,673	113.7
	15	プロペラシャフト	5,015	106.7	14,884	109.1
	16	車輪	8,599	96.3	25,344	98.6
	17	かじ取りハンドル	4,763	108.2	13,958	109.3
	18	ショックアブソーバ	10,770	106.5	32,210	110.9
	19	ブレーキ倍力装置	3,002	102.3	8,675	100.0
	20	ブレーキシリンダ	6,704	105.2	19,847	105.1
	21	ブレーキパイプ	2,874	109.4	8,097	111.6
	22	ブレーキシュー	3,102	105.9	8,856	105.7
	23	燃料タンク	8,014	108.4	23,049	107.7
	24	排気管及び消音器	28,852	108.1	84,150	109.4
	25	窓わく	2,953	113.1	8,669	115.3
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	8,978	90.9	25,912	91.0
	27	窓ガラス開閉装置	4,789	107.8	14,015	110.6
	28	シート	73,396	111.7	213,282	110.0
	29	スイッチ類	14,321	103.5	43,364	108.1
	30	計器類	11,317	95.7	34,264	102.7
	31	窓ふき	7,978	109.1	23,028	113.3
	32	警音器	1,374	101.5	4,059	105.0
	33	暖房装置	9,900	101.9	29,259	104.7
	34	電子式ブレーキ制御装置	15,589	103.2	47,049	108.3
	35	シートベルト	8,370	111.4	24,834	112.9
	36	エアバッグモジュール	7,214	112.5	21,537	117.7
	37	気化器・燃料噴射装置	22,221	99.6	64,092	101.5
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	36,865	104.3	108,104	106.6
	39	軸受メタル	4,428	175.9	13,113	186.5
	40	ブッシュ	2,926	136.9	7,462	120.2
	41	オイルシール	8,978	129.8	26,214	132.0
		合 計	560,551	105.6	1,645,765	107.7
関連自動車部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	8,984	118.9	25,592	110.4
	2	かさね板ばね	2,334	106.6	6,884	106.7
	3	つるまきばね	2,155	106.7	6,362	109.7
	4	線ばね	4,905	102.2	14,338	103.2
	5	カークーラー	28,071	108.7	78,122	104.0
	6	自動車用器具	32,343	114.1	93,511	116.2
	7	自動車用電球	1,045	122.2	2,906	128.1
	8	カーオーディオ	3,736	134.9	9,823	124.0
	9	カーナビゲーションシステム	31,839	107.0	98,115	113.5
		合 計	115,412	110.8	335,653	111.3

			2014. 3月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電装品 (5品目)	1	ダイナモ	7,209	101.4	21,653	106.4
	2	スタータ	8,260	113.3	24,288	115.8
	3	ディストリビュータ	625	77.2	1,848	81.6
	4	イグニッションコイル	7,439	97.3	21,874	99.3
	5	プラグ	11,050	118.0	31,491	126.4
		合 計	34,583	107.4	101,154	111.7
二輪自動車部品 (4品目)	1	気化器	811	106.6	2,621	107.6
	2	ショックアブソーバ	2,073	87.7	6,456	96.4
	3	計器類	1,216	84.7	3,879	93.3
	4	ブレーキ装置	1,905	181.6	5,786	181.8
		合 計	6,005	107.1	18,742	113.8

(注) :経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

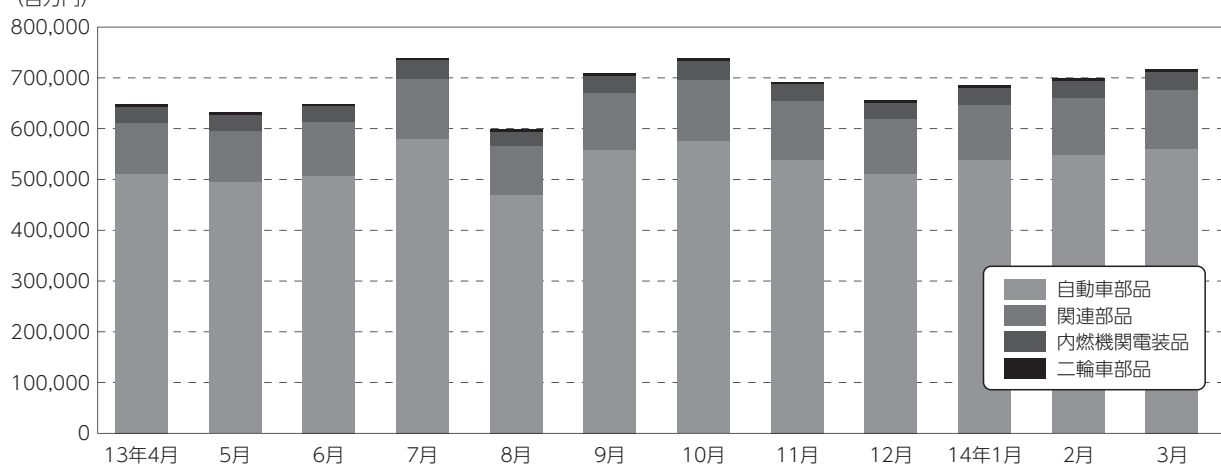
- ① 平成21年1月より/「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。
- ② 平成23年1月より/「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。
- ③ 平成26年1月より/品目の掲載順序を一部変更。
- ④ 平成26年1月より/「エアバッグモジュール」の定義を変更。

そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。

接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。

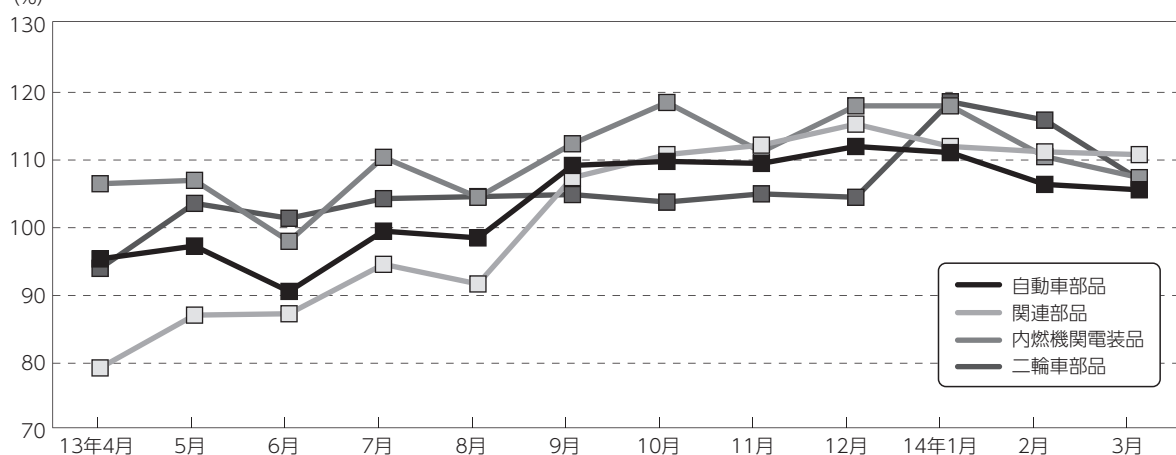
■最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



■自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



イワタボルトの グローバルネットワーク



国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ（ロサンゼルス・アトランタ・
オハイオ・ナッシュビル）・メキシコ・カナダ

認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA, INC.	2010年9月	FM549851	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA, INC.	2010年3月	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD.	2009年7月	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD.	2010年9月	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000507	BVQI
	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TÜV NORD
中国(深圳)	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TÜV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田7丁目21番1号 第5TOCビル

電話 03(3493)0211(代表) <http://www.iwatabolt.co.jp/>

KOITO



安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号

TEL: 03-3443-7111(代表) <http://www.koito.co.jp>

「企業は人」 材育

環境が変化しても

長し続ける

人材を育てる

人材育成制度

036 社

目標設定研修

075 回

評価者能力研修

538 回

昇格者選抜評価

125 回

人事・人材開発支援の

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
E-MAIL info@synergy-power.co.jp

主な実績企業

アイシン・エンジニアリング株式会社
アイシン機工株式会社
アイシン軽金属株式会社
アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社アイシン・コラボ
アイシン精機株式会社
アイシン炭業株式会社
アイシン高丘株式会社
NTN 株式会社
大阪トヨベツト株式会社
埼玉工業株式会社
株式会社ソミック石川
津田工業株式会社
株式会社デンソーセールス
デンソーテクノ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
浜名湖電装株式会社
浜名部品工業株式会社
豊生プレーキ工業株式会社
マブチモーター株式会社
他 (50 音順)

日本から中国へ、中国から日本へ、

航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

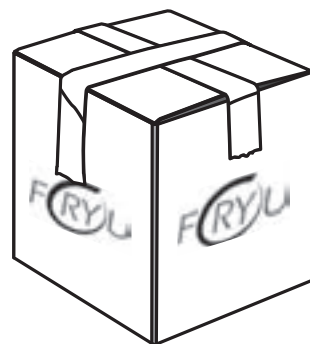
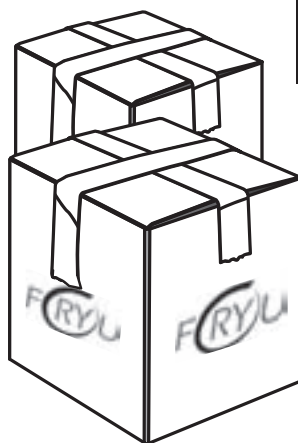
日本 中国間

同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

定期便ご利用なら、
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス



安心、確実、丁寧な
ハンドキャリーで
皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : http://foryouexpress.jp/

FORYU



フォーユーエクスプレス

検索

残暑御見舞申し上げます

株式会社今仙電機製作所 代表取締役 会長 若山 恭二 代表取締役 社長 藤掛 治	アルパイン株式会社 相 談 役 石黒 征三	株式会社浅野齒車工作所 取締役 社長 倉長勇太郎 取締役 相談役 浅野總一郎	曙ブレーキ工業株式会社 代表取締役社長 信元 久隆	アイシン精機株式会社 取締役社長 藤森 文雄	愛三工業株式会社 代表取締役社長 小林 信雄
小島プレス工業株式会社 取締役社長 小島洋一郎	株式会社小糸製作所 代表取締役社長 大嶽 昌宏	大野ゴム工業株式会社 代表取締役社長 大野 洋一	エムケーカシヤマ株式会社 代表取締役社長 樫山 剛士	NTN株式会社 代表取締役社長 大久保博司	イワタボルト株式会社 代表取締役社長 岩田 聖隆
大豊工業株式会社 代表取締役社長 上田 建仁	大同メタル工業株式会社 代表取締役会長 兼最高経営責任者 判治 誠吾	大東プレス工業株式会社 代表取締役 会長 吉田多佳志 取締役 社長 中牟田昌彦	株式会社杉浦製作所 代表取締役社長 杉浦 明博	株式会社ジェイテクト 取締役社長 安形 哲夫	三和パッキング工業株式会社 代表取締役社長 宮川 博至
株式会社ニチリン 代表取締役社長 清水 良雄	トヨタ紡織株式会社 取締役社長 豊田 周平	東海マテリアル株式会社 代表取締役社長 佐伯 正裕	株式会社デンソー 取締役社長 加藤 宣明	竹内工業株式会社 取締役社長 竹内 政雄	ダイヤモンド電機株式会社 代表取締役社長 栗田 裕功
株式会社ヨロズ 代表取締役 会長 志藤 昭彦 代表取締役 社長 佐藤 和己	ユニプレス株式会社 代表取締役社長 吉澤 正信	矢崎総業株式会社 代表取締役社長 矢崎 信二	三輪精機株式会社 代表取締役社長 末永 昭	日本特殊陶業株式会社 代表取締役社長 尾堂 真一	日東工業株式会社 代表取締役社長 溝呂木 明

Based on Customer Satisfaction!!

ISO/TS16949, ISO9001, ISO14001, AS9000 (JISQ9000)
(New!!) ISO/TS16949+ISO14001, ISO26262 etc.

- 自動車産業界にて大企業から中小企業まで絶大な信頼!
- ISO/TS16949支援実績多数!

- 中小企業向けグループコンサルティング開催中!
- 短期間、低コストで貴社のご要望に応じて支援!

○多くの企業様から感謝の御言葉が届いています。

- A社 (ISO/TS16949内部監査員セミナー)
学習と実践両方が学べて良かったです。講師のお話はとても分かりやすかったです。
- B社 (ISO/TS16949内部監査員セミナー)
ケーススタディによる実践的なカリキュラムで理解が深まった。ワークシート、不適合摘出演習が勉強になった。
- C社 (ISO/TS16949コアツール実践セミナー)
難しい内容に対して、説明がわかりやすく、内容をよく理解することが出来ました。
- D社 (ISO14001内部監査員 Brush Upセミナー)
グループディスカッションを主体としてプログラムが構成されており、課題に対するシミュレーションを体験する事で、力量がアップしていく実感が味わえた。
また、規格の最新動向等の情報も知識レベルアップに繋がる等、中味の濃い研修であった。



一般社団法人日本自動車部品工業会会員様向け

ISOセミナー開催スケジュール

2014年7月~12月

☆これまでに6,000名様以上のTS16949内部監査員を養成! (2014年3月現在)

☆JAPIA会員企業様の関連会社様には、VIP価格で提供します!

コース	会場	2014年						内 容 ※消費税8%を含む。昼食付。(定員30名)
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ISO/TS16949 規格解説コース	東京	11		5		6		■ISO9001、QS9000との相違点 ■ISO/TS16949:2009審査登録制度の概要 ■ISO/TS16949:2009要求事項と構築のポイント ■演習、理解度促進テスト 定価 ¥30,240 → ¥24,840-
	愛知		7		23		18	
ISO/TS16949 内部監査員 2日間コース <Ford4.37準拠プログラム>	東京	24-25	28-29	25-26	23-24		18-19	■ISO/TS16949:2009要求事項概要 ■コアツールの概要 ■プロセスアプローチに基づく監査の進め方 ■分析や計画、監査の留意点 ■ケーススタディ、不適合摘出演習 定価 ¥64,800 → ¥32,400- /2名以上~ 1名の場合 ¥41,040-
	愛知	17-18	21-22	18-19		6-7		
	大阪			11-12			11-12	
ISO/TS16949 コアツール実践 2日間コース	東京	24-25		25-26		13-14		■ISO/TS16949:2009におけるコアツール ■AIAG, APQP, PPAP, SPC, FMEA, MSA解説 ■ケーススタディ ■演習-工程能力解析、推奨処置検討、計数計測システム解析 定価 ¥64,800 → ¥43,200-
	愛知		21-22		28-29		4-5	
ISO9001 内部監査員 2日間コース	東京		26-27			20-21		■ISO9001:2008要求事項解説 ■内部品質監査とその手法 ■ケーススタディ ■演習-内部監査計画書、チェックリスト、不適合記録 定価 ¥43,200 → ¥29,160-
	愛知		7-8		9-10		18-19	
ISO14001 内部監査員 2日間コース	東京		28-29		16-17		11-12	■ISO14001規格の背景と概要 ■環境知識と環境関係法 ■ISO14001要求事項解説 ■内部環境監査の基礎と計画、手法 ■ケーススタディ、不適合指摘演習 定価 ¥43,200 → ¥29,160-
	愛知	17-18		18-19	29-30			

●ISOセミナー参加申し込み方法

- ・添付申込書に明記の上、FAXまたはE-mailにてお申込下さい。
- ・お問い合わせは六本木オフィスまで。

※4月より消費税は8%に値上がりします。
※特別価格は、1コースにつき2名様以上のお申込の場合に適用になります。
※セミナーは開催人数に満たない場合、延期になる事がありますのでご了承下さい。
※スケジュール、価格はやむを得ず変更になる場合があります。
※お申込後のキャンセルは、キャンセル費用を請求する場合があります。ご注意ください。



大好評! On-site training & Consultation

- 上記コースを貴社にて開催いたします。
- ISO/TS16949 関連コンサルティング 各種対応いたします。
- 2014年8月以降のご予約、受付中です。
- 土、日 対応致します。
- ISO9001, 14001内部監査員セミナー 10名集まれば、出張形式が割安です。

ISO教育コンサルティング

株式会社 **エルエーピー**

www.lapj.co.jp

六本木オフィス

東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビルEAST3階

TEL:03-5114-2930 FAX:03-5114-2931

愛知オフィス

愛知県刈谷市桜町2-19-302

TEL:0566-91-2911 FAX:0566-91-2913

JAPIA NEWS

2014
7・8
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻702号)

目次

- 01 | **巻頭言**
会長・玉村 和己
- 03 | **「月刊自動車部品」リニューアルに寄せて**
総務委員会 広報部会長・土居 清志
- 04 | **特集 部工会 通常総会開催**
平成26年度 事業計画承認
- 05 | **役員紹介**
- 07 | **平成26年度 事業計画**
- 10 | **工業会業務レポート**
- 15 | **委員会部会だより**
国際委員会 知的財産権部会
**自動車の技術と事業のグローバル化
歩調を合わせて進化**
知的財産権部会 部会長・鈴木 嘉浩
- 17 | **会員企業紹介**
株式会社ワイピースシステム
- 19 | **北米事務所だより vol.108**
JAPIA北米事務所・河島 哲則
- 20 | **会員トピックス**
日本発条株式会社・斉藤 浩明さん
- 21 | **ずい筆 グローバル化つれづれ**
日立オートモティブシステムズ阪神株式会社 取締役社長・坂本 哲也
ずい筆 変化を楽しもう
浜名湖電装株式会社 取締役・小林 康規
- 23 | **日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト**
- 26 | **指標・統計**

あとがきにかえて

長年にわたり継続して参りました「月刊自動車部品」は今号から隔月刊「JAPIA NEWS」として新たなスタートを切りました。いかがでしたでしょうか?より一層、会員の皆様へ団体としての重要なニュースをお届けする体制を固め、さらには会員各社の情報交換の場面としてお役にたてるようスタッフ一同頑張っていきたいと思っております。

平成26年8月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

AKEBONO

BRAKE EXPERTS

www.akebono-brake.com



世界一周の旅は続く! 小型自動車に搭載した 樹脂ベアリングの実力



樹脂製軸受「イグリデュール」誕生 30 周年を迎え、ドイツ本社創業 50 周年となる今年。

「イグリデュール」を搭載した小型自動車が世界ツアーに出発しました。

日本では無事 5000km に及ぶツアーを敢行。その後 W 杯で盛り上がるブラジルを経てアメリカに到着しました。寒暖差や雨、風、砂の中を走行し、樹脂軸受の耐久性を証明する旅はまだ続きます。



詳細は特設サイトをご覧ください ▶ www.igus-japan.jp

シートアジャスター



潤滑剤使用のPOM製ブッシュから置き換え

↓
イグリデュールJ



コンバーチブルのリンクシステム



グラスファイバーを用いた潤滑剤塗布のPA6複層金属ブッシュから置き換え

↓
イグリデュールG



サイドブレーキ



ノーブッシュで金属と金属が摺動していたところに取り付け

↓
イグリデュールG



ブレーキペダル



グラスファイバーを用いた潤滑剤塗布のPA6ブッシュから置き換え

↓
イグリデュールG



シフトレバー



樹脂巻き金属ブッシュから置き換え

↓
イグリデュールP210



ウィンドウリフター



潤滑剤使用のPOM製ブッシュから置き換え

↓
イグリデュールJ



ワイパーリンク



潤滑剤使用のPA66複層真鍮ブッシュから置き換え

↓
イグリデュールJ260



スロットルボディ



PTFE複層アルミ製ブッシュから置き換え

↓
イグリデュールX6



オルタネーター



金属ブッシュから置き換え

↓
イグリデュールG



14ヵ月間で32カ国
ツアー日程:

2月-インド
3月-中国
4月-韓国
5月-台湾
6月-日本
6月~7月-ブラジル
7月~9月-アメリカ/カナダ
10月-ドイツ
10月~2015年4月
ヨーロッパ各地

モーション・プラスチックのイグスは
樹脂にこだわり樹脂だからこそできることを追求し続けています

イグス株式会社 ホームページ: www.igus.co.jp E-mail: info@igus.co.jp

